

防衛大学校同窓会機関誌

小原台だより



(平成16年10月撮影)

同窓会ホームページアドレス：<http://www.bodaidsk.com/>

〔海外派遣部隊特集〕

- サマーワの人々とともに 番匠幸一郎
- インド洋の活動に参加して 野口 均
- 炎熱のクウェートで勤務して 日暮 正博

新年のご挨拶



防衛大学校同窓会会長 渡邊 信利

同窓会員の皆様、明けましておめでとうございます。全国各地で、また日本を離れ海外各地でご活躍の皆様には、平成17年の輝かしい新春を、それぞれ健やかにお迎えのこととお慶びを申し上げます。

さて昨年を振り返りますと、国外ではイラク等におけるテロとの戦いが熾烈さを増す一方、北朝鮮を巡る六者協議や拉致問題は大きな進展がないまま推移し、また南西諸島方面における中国の軍事・調査活動等が活発化するなど、我が国にとっては依然として、テロの脅威、大量破壊兵器やミサイルの深刻な脅威、そして主権侵害の事態に晒されております。加えて国内では、新潟県中越地震の発生や度重なる台風襲来など大きな自然災害にも見舞われました。

こうした中で、国外ではイラクをはじめクウェートやインド洋、さらにはゴラン高原や東チモールで国際貢献任務のために汗を流す（流した）現職会員を含む派遣部隊の凜々しい活動、またカンボジアやアフガニスタン等で国際ボランティア活動に従事する退職会員有志の姿、そして国内の被災地で救助救援・復興支援活動に黙々として取り組む現職会員を含む自衛隊員の活躍には、まさに頭の下がる思いであり、同窓会員として大きな誇りを感じ、国民の皆様とともに、心から称賛と敬意と感謝の意を表したいと思います。

このように困難な状況下でも強固な使命感、高いモラルや燃えるような情熱をもって、与えられた任務に邁進する現職会員やボランティア活動に献身する退職会員有志の姿を見るにつけ、それぞれ本人の自学研鑽は勿論のこと、防衛大学校や卒業後の陸・海・空各自衛隊における教育訓練の在り方や人材育成策が正しかった証左でもあり、新しい人材、有能な人材が脈絡として育っていることを本当に心強く思っております。今後とも若い「青年」会員の皆様には、大きな夢と希望と勇気をもって、何事にも真正面から挑戦する気概、所謂「チャレンジ精神」を

大いに發揮していただきたいと思います。また経験豊富な、ベテランの「老・壯年」会員の皆様には、「同窓同学の絆」を大切にし、後に続く若いの方々を見守り、温かい手を差し伸べていただきたいと思います。

さて私は、会長就任にあたり、早急に取り組むべき課題として3点を、また中長期的な課題として1点を挙げ、その解決に努力して参りました。

その第1は「財源の確保」であり、具体的には近年著しく悪化した会員の会費納入率の改善です。現執行部が一丸となりこの問題に取り組み、母校防衛大学校をはじめ陸・海・空各幹部候補生学校や各職種・術科学校等の関係者の皆様のご協力をいただき、その結果近年新しく入会した会員の皆様の理解・納得を得て、少なくとも従来のレベルと同等又はそれ以上に会費納入率は大幅に改善されました。ここに、ご尽力いただいた関係者各位のご協力・ご支援に厚くお礼申し上げます。

第2は「年度事業の見直し」であり、具体的には15年度（後半）事業の実施及び16年度予算の編成・執行、あるいは17年度予算の編成にあたり、個々の事業の必要性の是非や実施要領等の適否について精査し、特に「費用対効果」を勘案し、「助成金」等の削減、各種行事等の「受益者負担の原則」の確立、防大生支援の「目に見える形」での実施などを実行し、歳出の全般的な抑制を図りつつ、新規事業の財源の確保等に努めております。

第3に「MCI事業の推進」ですが、17年度まで継続される「MCI事業準備委員会」の検討を踏まえながら、先ず15年度事業として決定された「防大同窓会ホームページ(HP)」を16年3月に立ち上げて試験運用し、4月から本格運用いたしました。

また16年度事業としては、この「防大同窓会ホームページ」をさらに拡充するべく努力中であり、掲載内容の充実・拡大や記事の更新頻度の短縮を図り、特に年1回発行している機関誌「小原台だより」の

内容を先取りする形で、同窓会の各種活動を適時適切に公表・広報しています。なおMCI事業については、計画に基づき「ステップ バイ ステップ」、「やれること」と「できないこと」を峻別しつつ、逐次具体化・実行してまいりたいと考えています。

次に長（中）期的な課題である「防大同窓会のあり方に関する検討」ですが、平成15年12月に会長直属の「防大同窓会あり方検討委員会」（以下「あり方検討委員会」という。）を設置して、今日まで精力的に検討・審議を実施していただきました。

あり方検討委員会は、「防大同窓会のあり方」についてのアンケート調査を実施し、多くの会員の皆様から貴重なご意見等をいただきました。これらアンケート調査結果等を参考にしながら、「防大同窓会のあり方」に関する検討を継続して実施し、その審議結果を「防大同窓会の健全な発展のために」（第一次案）としてまとめ、16年10月の理事会及び12月の定期代議員会に報告しました。この答申第一次案について、各期生会長及び各地域支部長等から再度ご意見・感想等を聴取し、本年1月末頃までに再検討し、「防大同窓会のあり方」に関する最終答申文書として取り纏める予定と伺っております。

アンケート調査及び「防大同窓会のあり方」答申案に対する意見提出にご支援・ご協力いただいた各期生会長、各地域支部長等、そして現職主要部隊長等を含む多くの会員の皆様に心から感謝申し上げます。

中間報告された答申第一次案の提言等については、今年度の活動及び次年度予算・事業として取り込めるものは速やかに採用し、特に次年度に事務局内で「プロジェクト・チーム」を編成して、新規事業の実行や事業化のための中期計画の策定等に着手したいと考えております。

私は、アンケート調査への回答として寄せられた建設的な多くのご意見・ご提言等を拝見して、会員一人一人が母校防衛大学校への強い愛情、同窓会員としての高い誇りと固い連帯感を持ち、現職会員も退職会員も共に、防大同窓会の健全な発展を願っていることを改めて確信いたしました。防大同窓生会員が一丸となり、母校発展の原動力となる、より良き同窓会を存続・発展させるために、今後も微力を尽くしたいと思います。

最後になりましたが、同窓会員の皆様が、ご家族共々益々ご健勝で幸多い年になりますようにお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

目次

会長の年頭のご挨拶	2
海外派遣部隊特集	4
・サマーワの人々とともに	5
・インド洋の活動に参加して	7
・炎熱のクウェートで勤務して	9
小原台は今	11
特別寄稿	
・小原台の気風伝統	16
防大に対する支援	19
50周年関連事業	
・顕彰室整備	20
中期事業	
・同窓会ホームページ	21
・MCI事業	21
・ホームカミングの実施	24

・同窓会のあり方検討	24
期生会だより	28
同窓生アラカルト	30
支部だより	33
同窓会行事	39
会費納入のお願い	41
会計報告	43
期生会会長・代議員名簿	45
お知らせ	46
・名簿更新に関するお願い	
・同窓会本部会議室の使用	
・防大同窓会総会のご案内	

《海外派遣部隊特集》



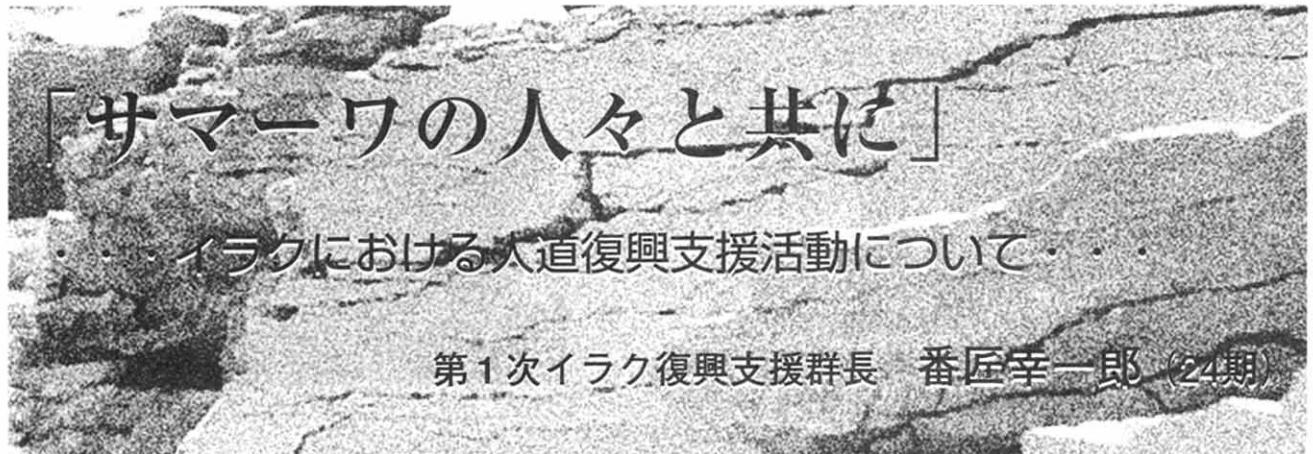
支援群総員集合（陸自）



笑顔で出発（海自）



イラクへ出発する陸自隊員の見送り（空自）



「サマーワの人々と共に」

・・・イラクにおける人道復興支援活動について・・・

第1次イラク復興支援群長 番匠幸一郎 (24期)

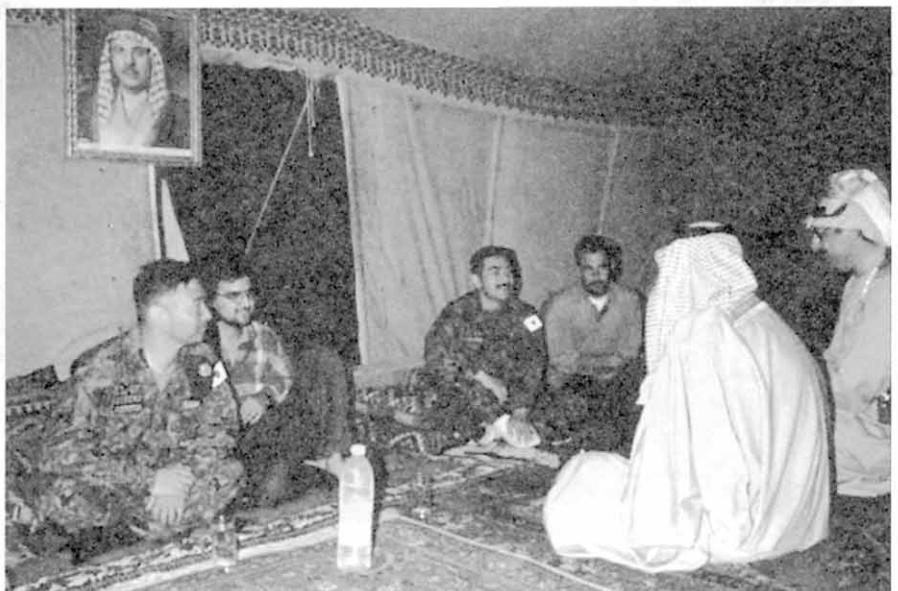
零下24度の北海道から、摂氏40度を超える熱砂のイラクに向かったのは、昨年(16年)2月のことでした。早いもので、イラクにおける自衛隊の人道復興支援任務が開始されて約10ヶ月。体感温度が60度を超えるイラクで、今日多くの自衛隊員が、そして多くの防衛大学校卒業生が人道復興支援の任務に汗を流しております。まずは、私たちのイラクにおける活動間、全国の防衛大学校同窓会員の皆様から頂きました暖かい御支援・御声援に心から厚く御礼申し上げます。

さて、私たちは、15年7月に成立した「イラク人道復興支援特別措置法」、12月に閣議決定された基本計画に基づいて、陸海空の3自衛隊が一体となって、イラク戦争の終結から間もないイラクでの任務の開始に向けた準備に取り組みました。部隊の編成、任務遂行上必要な教育訓練、装備品等大量の物資の準備と現地への輸送など、約8千キロ離れた中東イラクへの展開は、これまでのPKOに比べても、はるかに大がかりなものとなりました。

私が主力第1派としてイラク入りしたのは2月27日。既に現地入りして所要の準備や関係先との調整に当たっていた先遣部隊と合流し、早速、宿营地の建設や人道復興支援活動の開始に向けた準備に入りました。そして、3月下旬までに、医療支援、給水支援、そして公共施設の

復旧・補修の三本柱からなる人道復興支援活動を開始しました。

陸上自衛隊の活動は、イラク南東部に位置するムサンナ県の県庁所在地、サマーワを中心に行われております。私たちは、荒廃した国土を懸命に復興させようとしているイラク国民の方々を後押しすべく、日本から来た友人として人道復興支援活動に努力して来ました。同時に、学校を訪問して子供達に対するミニコンサートを開いたり、地域住民の方々との交流を積極的に行いました。日本の伝統や文化の紹介、日本の有志の方々からお預かりした善意の伝達などの活動も行いました。それは、イラクの復興の主役がイラク人自身であり、我々は彼らに「夢と希望」を持ってもらうことが何よりも重要だと思ったからです。日本人の代表として、イラクの方々と一緒に汗を流しながら、同じ目標に立った「日本式」のやり方で様々な活動を行いました。このような私たちの活動は、イラクの方々から好意的に評価して頂けたのではないかと感じております。実際、2月にサマーワに到着した時よりも、5月末に任務を終えて現地を後にする時の方が、より多くの方々に、より深く感謝と親しみの気持ちを示して頂けたように思います。



部族長との膝詰め懇談

◆ 海外派遣部隊特集 ◆

私は、町中で、また、訪問した学校などで「ヤバニー・ゲー」と大きく手を振ってくれたサマーワの子供たちの輝く目と満面の笑顔を忘れられません。この任務に就いて良かった、日本人の代表としてイラクに来て良かったということを実感する毎日でした。また、このような歓迎を受けたのは、今回私たちがイラクに赴いて活動を始めたからということだけではなく、イラクと日本の歴史的なつながりの中で、幾多の先輩たちが築いて来られた日本という国への尊敬と、日本人に対する深い信頼があったからだと思います。改めて、日本人であることを誇りに思うことでした。

私たち第1次隊は、「日本人らしく誠実に心を込めて、武士道の國の自衛官らしく規律正しく堂々と」をモットーに、イラクに於ける任務に取り組んで参りました。実は「武士道の國の自衛官」を考えるとき、常に頭にあったのは、学生時代に慣れ親しんだ「廉恥、真勇、礼節」という学生綱領の精神でした。防人、武士、軍人、自衛官とその呼び名は変化しようとも、国のために全力で任務の完遂に努める集団が、熱く静かに心の中に継承してきた規範を再確認する想いでした。

私たちは、イラクにおける人道復興支援の第1走者として、サマーワの砂漠の中に宿营地を作り、日の丸を掲げて、我が国のイラクに対する人道復興支援のスタートを切りました。言い換えれば、砂漠を耕し、種を蒔き、水を遣り、ようやく新芽が出てきた段階だと思います。私たちの活動によって、偉大な歴史と潜在力のあるイラクの方々に、明るい未来への夢と希望を持って頂けるよう、そして、このことが、中東、ひいては世界の平和と安定に、また、結果的に我が国の平和と繁栄につながることになれば、これほど幸せなことはないと思います。



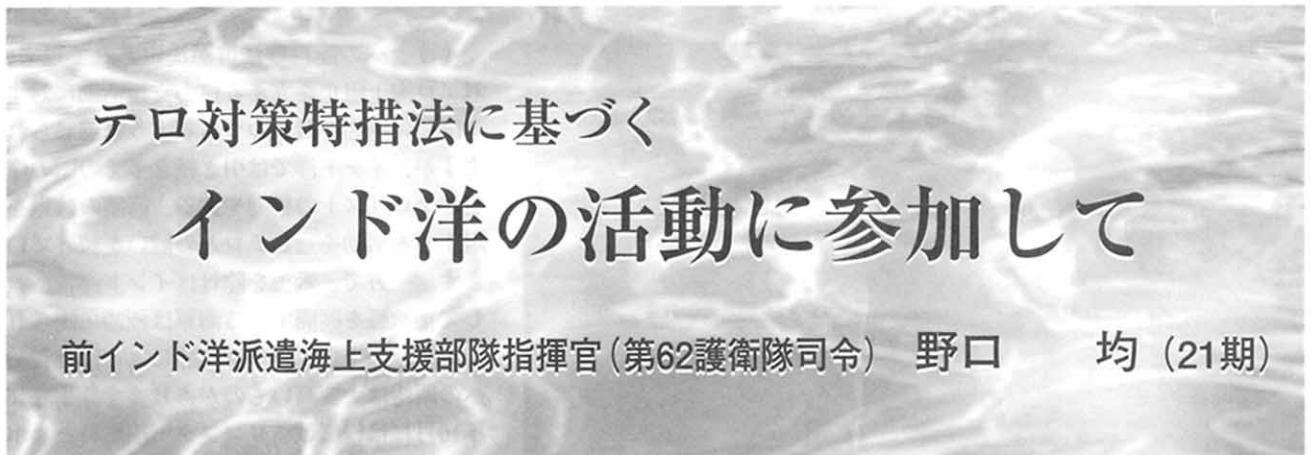
砂塵との闘い

自衛隊によるイラク人道復興支援任務は、北部方面隊で編成された第2師団基幹の我々第1次隊、第11師団基幹の第2次隊に続き、東北方面隊の9師団を基幹とする第3次隊が任務を引き継ぎ、そして現在は第6師団基幹福田1佐（24期）率いる第4次隊の隊員達がサマーワで活動しております。また、多くの卒業生たちが、バグダッド、バースラ、クウェート、カタールなどでも連絡調整や輸送任務等にあたっております。第1次復興支援群以降第4次隊の現在まで、陸上自衛隊だけでも、今回のイラク人道復興支援任務に参加した防衛大出身者は約200名にも上っております。彼らは皆、防衛大学校建学の精神を胸に、陸海空3自衛隊一体となり、プロフェッショナルとして、淡々素々と自然体で様々な任務に取り組んでおります。任務の終了を命ぜられるまで、今後も多くの卒業生を含む隊員がイラクをはじめ中東での活動に従事することになると思います。どうぞ、今後とも格段の御支援、御声援を宜しくお願ひ申し上げます。

同窓会員の皆様に対し、改めまして深く御礼申し上げます。有り難うございました。



明日を担う子供たちと



前インド洋派遣海上支援部隊指揮官（第62護衛隊司令） 野口 均（21期）

平成16年5月17日、イージス艦「こんごう」に乗艦し、護衛艦「ありあけ」を率い新緑の佐世保を出港、3月14日に呉を先発し既に任務に就いていた補給艦「とわだ」を合同、前任のインド洋派遣海上支援部隊指揮官（第63護衛隊司令）から任務を引き継ぎ、インド洋派遣海上支援部隊としての任務に従事して、初秋の9月19日、総員元気に帰国しました。補給艦「とわだ」は4回目の派遣であり、「こんごう」、「ありあけ」も昨年に引き続き同じ時期の2回目の派遣となりました。

海上自衛隊は2001年9月11日の米国での同時多発テロを契機としてテロの防止と根絶のための取り組みに積極的かつ主体的に寄与するという日本の立場から同年10月に成立したテロ対策特措法に基づき同年11月以降、インド洋上の米英艦艇を中心とした外国艦艇への補給・輸送支援を実施国艦艇に対する補給・輸送支援等を継続しています。

海上自衛隊が支援している外国の艦艇はテロ防止のための海上阻止作戦に従事しており、主としてアフガニスタンから海路を通じてのテロリストの逃亡を防ぐこととテロリストへの武器、弾薬、不正な資金、麻薬等の流れを断ち切ることを任務としてインド洋で活動しています。

海上自衛隊の洋上補給支援はこれらの艦艇の作戦効率の向上に大きく寄与しています。支援対象国は、当初、アメリカ、イギリスのみでしたが、逐次拡大され、現在はドイツ、ニュージーランド、フランス、イタリア、オランダ、スペイン、カナダ、ギリシャ、パキスタンを加えて、合計11カ国になっています。

今回行動した6-8月はインド洋では最も暑い時期であり気温は35度を超え、陸岸に近くなれば40度を超えることもしばしばです。甲板上は熱せられた鉄板の照り返しで70度を超えます。湿度も85パーセントから90パーセント、時には99パーセントという日もありました。これは室温と湿度が非常に高い風呂場にいるような感じで甲板上に10分もいれば、発汗した汗が乾かず、下着も作業服も水に濡らした服を着ているような状態になります。洋上補給中の甲板作業は更に救命胴衣も装着しますので特に大変です。定期的に水分と塩分を補給しつつの作業となり、補給艦乗員には、相当の体力と忍耐力が要求されます。



警戒体制下での洋上補給

行動海域には国籍が確認できない船舶や航空機が多数行動していました。特に、レーダーに映りにくい小型船舶、オイルリゲと陸上間を行き来する小型航空機等に出会うこともあります。その都度識別には神経を使いました。自爆ボートの突入で大損害を受けた米駆逐艦コールや仏国タンカーの例があるように洋上でもテロの危険が存在するため不測の事態に備え部隊として常に高い警戒態勢を維持していました。特に洋上補給中は、補給艦と受給艦の2隻が数10メートルの距離で並走し運動が大きく制約されるため、一層厳重な警戒が必要で艦載ヘリコプターも動員するなど細心の注意を払いました。また、上甲板で警戒に当たる者は猛暑にもかかわらず防弾チョッキを着用して配置についています。

インド洋の特徴である砂塵、高温多湿、昼夜の気温差などに起因する故障等を防止するため入念な整備が必要でした。砂塵防止用のフィルターの定期的な水洗や交換、高温のため劣化が早くなる潤滑油の頻繁な点検、また日本近海では予想もできないアンテナの絶縁低下などの故障に備えるきめ細かな対策も必要でした。

私は今回の派遣に当たっての方針を「一致団結」、「任務完遂」「健勝帰国」として、劣悪な環境下で半年近くも長期行動する乗員のストレス発散のため艦内レクレーションや艦上体育を奨励するとともに、出発前の確実な健康診断と歯科治療の実施、現地における適切な健康管理に留意しました。おかげで途中帰国を要するような大きな



艦上のレクリエーション

病気に掛かる者もなく全員が任務を完遂し無事元気に帰国することができました。

遠く日本を離れ長期の任務行動ともなると、気にかかるのが家族のことです。このため、いろいろな配慮がなされおり、その一つが艦内に郵便局があることです。国内と同じように、手紙を出すことも受け取ることもできます。衛星回線を使用してインターネットによる家族とのメールのやり取りも実施でき国内のようにはいきませんが平均すれば2日に1回は家族とのメール交換を実施していました。また、艦内新聞を発行し、国内の家族にも送っていました。一方、国内でも地方総監部が留守家族に対する説明会を開き、インド洋の乗員と国内の留守家族とが相互にビデオレターを交換して、近況を伝え合っています。これら家族との通信がインド洋の乗員にとって楽しみであるばかりでなく、大きな心の支えとなっていました。

イラクへの陸自等派遣が決定されて以来、対テロ海上阻止を支える協力支援活動に対する国民の関心が薄れつつあるように感じられます。一方で、米英を除けばインド洋に継続して補給艦を展開できる海軍は極めて限られており、海上自衛隊の補給艦による洋上補給への期待は大変高いものがあります。平成16年10月には、艦載ヘリコプター用燃料と真水の補給も可能となり、インド洋における海上自衛隊の支援能力は、この海域で対テロ活動を継続する上で極めて重要な柱となっています。この活動を開始して以来約3年が経過していますが、海上自衛隊がこの活動を継続する必要性は派遣当初となんら変わることはありません。

これまで、海上自衛隊は、補給艦、護衛艦、輸送艦、掃海母艦延べ約40隻、約7000人の隊員がこの協力支援活動に参加してきました。湾岸周辺諸国も自国の平和と安全のため、また湾岸地域の安定のための努力を継続しています。海自隊員の節度ある態度と献身的な努力は、湾岸周辺諸国及びインド洋に展開するコアリションの国々から高い評価を得るとともに、テロとの闘いに正面から立ち向かう主体的、積極的な姿勢は、世界各国から、とりわけ米国から高く評価されています。私は、テロ特措法に基づくインド洋での活動に参加して、この活動は単に洋上におけるコアリション艦艇に対する給油ではなく、ひいては日本の安全保障に直接影響するものであり、日本の防衛そのものであることをあらためて実感した次第です。



各国海軍との交歓

炎熱のクウェートで勤務して

第2期イラク復興支援派遣輸送航空隊司令 日暮 正博（16期）

第2期イラク復興支援派遣輸送航空隊司令として、16年4月から7月までの間、クウェートで勤務しましたが、この度本誌への寄稿機会を得ましたので、派遣部隊の状況等について、経験談を含め簡単に紹介させて頂きます。

イラク復興支援派遣輸送航空隊は、クウェート空軍基地に拠点を置き、イラク特措法に基づく人道復興支援等に係る航空輸送の任に当たっています。派遣部隊は、第1輸送航空隊出身要員が大半の飛行隊及び整備隊と全国各地の部隊からの選抜要員で構成される隊司令部及び業務隊等の部隊により編成された臨時混成部隊でした。派遣隊員は、国の代表としての自覚と誇りを堅持し不透明な現地情勢下において、厳しい自然環境と約3か月の断酒生活を克服しつつ任務の完遂に努めました。

クウェートの治安状況は警察や軍等により警備態勢が強化されていましたが、全般的には安定しているように感じられました。しかしながら基地近傍で銃撃や発砲等の事案が時々発生しており、隊員にはその都度注意喚起するとともに常に慎重な行動をとらせておりました。基地ゲートの警備は、クウェート軍及び米軍が個別に実施しており、特に米軍は、ゲートを通過するクウェート



警戒下での搭載作業

軍以外の人員、車両及び運搬物等の検査を厳重に実施していました。私もゲートを通過する際、携行していた蕎麦粉に警備犬が過敏に反応したため、爆発物の臭気がするとの疑いで、1時間程炎天下で待機させられ車両の検査を受けた経験があります。

勤務環境で特筆すべきは、やはり気温です。現地では丁度気温の上昇時期に当たり、派遣直後の36~7度から帰国直前には46~8度にまで上昇しました。ただし湿度が低いので数値程の暑さは感じられませんが、直射日光下における屋外作業は体力の消耗が激しく、当時はまだ格納庫が未完成であり、また個人用防暑用被服の準備が不十分な状況がありましたので、航空機整備員や警備員には大変厳しい勤務となりました。一方エアコンが完備された屋内は快適でしたが、エアコンの故障や停電が時々生じ、この時は悲惨な状態になりました。特にクウェートの休養日の前日である水曜日などに故障すると最悪で、施設を管理する軍及び業者の対処が直ぐには得られないで最低5日程度はエアコン無しのサウナ室勤務を覚悟せねばならないことも珍しくありませんでした。これでも、現地のクウェートの人々は、今年は気温が低くかつ砂嵐の少ない10年振りの特異気象であり、こうした時期に派遣してきた君たちは大変ラッキーであると度々言われたものです。



酷暑の中の整備作業

◆海外派遣部隊特集◆

我々第2期派遣部隊の任務は、航空輸送任務を着実に実施しつつ、第1期の業績を引き継ぎ任務遂行態勢を補備充実するという認識の下、特にその基盤となる隊員の生活環境の改善については組織的かつ積極的に取り組みました。この結果7月からは、隊員の食事が、不人気の洋食ケータリング（クウェートの業者による外注食）から、待望の日本人シェフ調理による日本食へと移行しました。その他インターネットや風呂等の整備も推進しましたが、インターネットはダイヤルアップ方式、風呂はホテル用のバスタブと多少使い勝手が悪い状況にあり、今後の本格的な整備が待たれるところです。

厚生活活動としては、派遣隊員の現地での思い出作りのため、鲤幟の掲揚、七夕飾りの作成、川柳の歌集の編集等を実施しました。また上級空曹会によるウォーキング大会及びカレー調理等の催しは隊員のストレス解消に大いに役立ちました。その他、個々の隊員はクウェート及び米軍施設を利用してのサッカー、筋トレ及び屋外での

ウォーキング等で汗を流し、厚生で準備した音楽CDや映画DVDの鑑賞等で余暇を過ごしていました。またクウェート軍の兵士に武道を教え、国際交流の促進を図る隊員もありました。

派遣部隊は、現地において陸上自衛隊及び外務省在クウェート大使館と密接に連携し、また相互に協力して任務を遂行しておりましたが、この他OBを含む自衛隊関係者や一般社会の方からも激励品や慰問品等の寄贈等物心両面に亘る多大の激励と御支援を頂きました。この場をお借りして御紹介させて頂くと共に改めてお礼を申し上げる次第です。また今年定年を迎える私に、こうした自衛官らしい仕事を与えて頂いた関係各位にも感謝を申し上げ、最後に現地の川柳等大会での最優秀作品の紹介をもって筆を擱くことにします。

テレビでは伝わらないのよ この体感
暑いというより 熱いんです



七夕祭り



クウェート軍人と武道練習

OB小原台は今

西原校長モンゴル国防大学等を訪問



握手を交わす西原校長とグルラグチャー国防大臣
(後方は、チンギスハンの像)

西原校長は、平成16年9月15日(木)から同18日(土)までの間、モンゴルを訪問した。国防大臣、陸軍参謀総長、国防大学長等を表敬して、モンゴル軍の現状と将来、モンゴル軍の教育システム及び留学生の派遣要領等に関する率直な意見交換を行った。



国防大学のブリーフィングを受ける西原校長
(右前列：ミャガマル国防大学長)

モンゴル軍は3種類の教育システムにより教育訓練を実施している。具体的には、①国防大学（軍事管理アカデミー、士官学校、国民教育大学、下士官学校、軍事音楽専門学校）、②一般大学（医者、コンピュータ専門家の養成等）、③外国の軍事大学への留学である。

国防大学においては、学生によるコマンドサンボ、行進等の訓練展示を見学する機会を得て、国防大学における訓練の一端を研修した。



訓練展示を研修中の西原校長



コマンドサンボの展示

軍事博物館では、モンゴル地域の原住民が使用した遺物、チンギスカン時代の戦闘服、武器、戦闘方法、モンゴル軍創設時の英雄等に関して研修する機会を得た。

今回の訪問にあたり、事前準備から実施に至るまで在中国日本大使館付防衛駐在官 大澤1等陸佐（防大30期）から、様々な協力・支援を受けた。

サプライズ！ 画期的泳法理論で 世界的注目を得る

防大教官 伊藤講師

防衛大学校システム工学群機械工学科の伊藤慎一郎講師は、かねてから水泳の泳法の研究発表を行い、その泳法理論は日本のみならず世界水泳界から注目を受けていたが、その正しさが先般のアテネオリンピックで立証され、この度NHKとTBSの2社から取材を受け10月に両テレビ局から放送された。

NHK教育テレビ「科学大好き どう塾 シンクロナイズドスイミングの科学」

シンクロナイズドスイミングでは立ち泳ぎを行うとき、手はスカーリングという動作を行っている。熟練した演技スイマーがそれを行うときに、空気を巻き込むような渦が発生する。

それがなぜ発生するのか、素人はどうしてできないのかをコメント。

この企画に関して、シンクロナイズドスイミングのスカーリング動作は基本的にはヘリコプターのホバリングと同じ機構であることを説明し、放映内容に関してのアドバイスを行った。

TBS・毎日放送系列「ザ・ブレインサミット 激突！日本の超頭脳Ⅱ」

“世界に誇れる日本の学者”として今回、7人の学者の中の1人として紹介された。自由形の泳ぎを大きく変える可能性がある泳法を計算によって見出したことがその理由。

自由形の泳ぎは手のひらをSの字に描く“S字泳ぎ”が主流であるが、カメ、スッポンの本能による泳ぎを数式に置き換え、人間に当てはめてみたところ、手のひらを直線的にかく“I字泳ぎ”（称：伊藤講師）なる泳法が見出された。

これは理論的には従来の方法の2.4%程度のエネルギー消費に対して11%のスピードアップが可能となる泳法である。

たまたま、50mあたりのストローク数が極めて低い世界記録保持者イアン・ソープの泳法と伊藤講師の提唱する泳ぎが極似していた。2002年にこの泳法を発表・提唱してきたが、今回のアテネ・オリンピックにおいては、“I字泳法”採用者がかなり増えている。

現に、コーチが伊藤講師に熱心にコンタクトしてきたポーランドはシドニー五輪ではメダル0個であったが、今回はI字泳法により女子自由形400mにおいて銀メダルを獲得している。筋力がついたためか、同じ泳者が200mバタフライで金メダル、100mバタフライで銀メダルを獲得する波及効果があった。将来的には競泳自由形における

泳ぎは日本発でしかも理論からの“I字泳法”に塗り変わることを期待したい。

今回はテレビ局の協力により、1人のスイマーのフォームを変える実験を行うことができた。わずか2週間という短期間ではあったが7割方のフォーム矯正を行い、50mで29.99秒のタイムを26.79秒に短縮することに成功した。

スポーツの人類に対する貢献度を考えると、世界記録アップにつながる泳法であるだけに、その注目度は高いと思われる。

http://www.tbs.co.jp/program/mbs_brainsummit2.html

○伊藤講師に関する過去の関連記事

（防大タイムズ2002年9月号）

「機械工学科伊藤講師、国際会議において最優秀賞受賞」

<http://www.nda.ac.jp/ad/boudaitimes/btms200209/itou.htm>

■ 新学生舎完成により8人部屋へ逐次移行 ■

○部屋人数の変遷

学生舎の部屋は、昭和30年から昭和53年までの24年間、自習室及び寝室を8名で使用していましたが、昭和54年から昭和62年までの9年間、4名となり、昭和63年から平成8年までの9年間においては机とベットを設置した1部屋を2名で使用していました。その後、平成9年からは、自習室及び寝室を4名で使用していましたが、この度第3学生舎の完成にともない自習室及び寝室を8名で使用することとなりました。

2～4人部屋は、自衛隊の「魅力化（ゆとり）」施策を反映したものであり、特に少子化世代である新入生を防大生活に順応させることを考慮された結果でした。しかし、防大の設置目的である幹部自衛官となるべき者を教育訓練するという原点に立ち戻れば、リーダーシップを涵養することが必要であり、そのため、新学生舎完成に伴い、参加型のリーダーシップの涵養及び他リーダーシップの観察（1室に2名の4年生を配置）を重視事項として逐次8人部屋へと移行していくこととなりました。

○リーダーシップの涵養

同室に2名の4学年が生活することは、切磋琢磨するとともに、情報交換及び下級生指導の役割分担等から4学年の指導能力向上に好影響を与えるものと期待されています。また、心理学の観点からも、リーダーシップの涵養においては8人部屋が最適であると言われています。

○1学年の防大生活への順応

1学年については2名が同室で生活することにより、相互に助け合い、連帯感が育成されるとともに、修学意欲の向上並びに生活上のストレス軽減を図ることが期待さ

れています。

◎社会性の獲得

最近の特徴である少子化傾向による人間関係（団体生活）に不慣れな学生に対しては、この学生舎生活を通じて、団体の中で意識して行動する習慣（躰、規律の保持）を形成させ、卒業後の部隊への適応性の獲得も期待されています。



校友会活動

全日本学生弁論大会で 最優秀賞・土光杯を受賞して

国際関係学科 第4学年 福 和歌子



16年1月10日(土)に行なわれた第20回土光杯全日本学生弁論大会において、最優秀賞である土光杯を受賞することができた。私個人では身に余るこの栄誉を、皆と分かち合いたいと感じている。

出場のきっかけは、運動部も指導部が3学年に交代したことであるし、文化部の活動にも力を入れてみようと思ったことであった。そして、せっかく弁論部に入っているのだから、せめて卒業前にもう一度、大会に出場したかったのである。それが10月の初めのことであった。「土光杯」の存在は、昨年春に卒業した池田由香子さんが2年前に受賞されたことを通じて知っていた。出場するためには、まず論文審査に合格しなければならない。急いで書き上げた論文が幸いにも審査に合格し、出場が決定したのを知ったのは12月に入ってからであった。

ただでさえ防大生であるということで、会場の注目を集めることは予想していた。ましてや今の時期、防大に寄せられる関心や期待が多いことも感じていた。それは大会において有利な条件であると自覚していたものの、肝心の弁論がしっかりとていなくては話にならない。防大生の代表として臨むからには、好条件に甘えていてはいけない。そのような意識のもと、再度勉強し、原稿の練り直しにかかった。そして1月、本番までの4日間で、何度も勉強会を開き、原稿を読み合わせた。この短期間に何度も顔を出し、忌憚のない意見で弁論を磨き上げてくれた、弁論部顧問および部員、周囲の人々に心から感謝している。

弁論は「ODA(政府開発援助)と外交戦略の正しい関係」との演題のもと、中国へのODAの停止を主張するものであった。それは2003年の8月に、「ODAの目的は、国際社会の平和と発展に貢献し、それを通じてわが国の安定と繁栄の確保に資する」と新ODA大綱で定められた理念を踏まえてのことである。弁論の中で私は、対中ODAはその理念からはずれていると繰り返し説明した。「本来の趣旨に外れた目的で、国民の税金を使ってはならない」という非常にシンプルな認識に訴えかけた点が、強みであったと思う。

今回の出場を通じて、私は「人を説得するとはどういうことか」を掴みかけたのではないかと思う。相手を説得するためにはまず、自分の考えをさまざまな面で切って見せなければならない。その断面がいつも同じ形であれば、相手を納得させることができる。これは立体であれば「球」にあたる。無論、立体の大きさや材質はその人の個性により、まちまちであろう。今回の弁論を、ど

の面で切断しても「円」になる「球」に近付けるには、私個人の力だけではできなかっただろう。周囲の人々が丁寧にやすりをかけてくれたお陰である。こうして磨きぬかれた「珠玉」は私の宝物として、心の中で、小気味よい音を立てて転がっている。

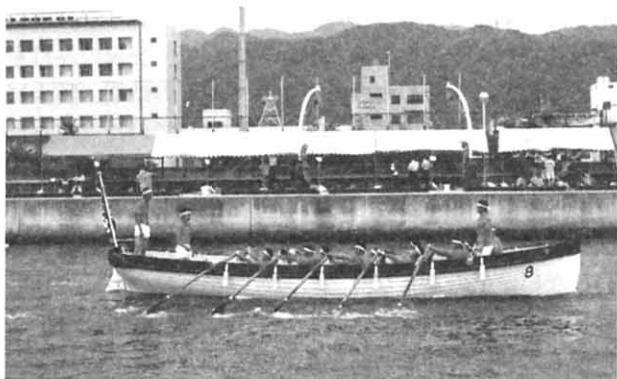
校友会活動

第48回全日本カッター競技会 優勝

平成16年5月29日(土)、第48回全日本カッター競技会が神戸大学深江キャンパス前面海域において開催され、防大から短艇委員会(主将、4学年長谷川学生、以下16名)が本競技に参加した。

午前に実施された予選第2レースをトップで勝ち進み、午後の決勝レースでは東京海洋大学と約2秒差の接戦を演じ見事優勝、昨年度に引き続き2連覇を達成した。

本競技会に応援団リーダー部も応援にかけつけ選手と一緒にってエールを贈り続けた。



優勝に向け力漕する防大クルー

校友会活動

韓国陸軍士官学校との スポーツ(サッカー)交流

11月26日(金)から29日(月)の間、韓国陸軍士官学校から生徒隊長権五晟(コンオソン)准将以下18名(生徒14名)の訪問団を迎えてスポーツ(サッカー)交流行事を実施した。

本事業の目玉であるサッカー親善試合は、小春日和の27日(日)、防衛大学校サッカー場において行われた。試合は序盤から韓国ペースとなり前半を0-2とリードされた。後半に入って防大が徐々にペースを掴み序盤に2点をいれて同点としたが、負けじと粘る韓国に逆転ゴールを許し2-3となった。2連敗だけは是が非でも避けたい防大は終盤にゴールを奪い再度同点としたが、その後はお互い得点できずに同点のまま終了した。防大は、昨年(0-2で敗戦)の雪辱は果たせなかったものの、両

チームとも終始フェアプレイに徹した好ゲームを展開し、試合を通じて学生相互の友好を深めた。

この間、親善試合の他、防衛大学校の概況説明、校内施設見学、合同練習、横須賀市内見学等を通じて日韓相互の理解を深めるとともに、両国の親善に大いに寄与することができた。



①



②



③



④

親善試合の様子(防衛大学校サッカー場)

上より

①試合前のペナント交換(左:韓国、右:防大)、②親善試合の様子、③職員参加の試合の様子、④試合後の交流の様子

本交流事業は、日韓防衛交流事業のひとつであり、昨年11月(韓国において実施)の返礼行事として実施された。

平成16年度運動系校友会活動結果及び部員状況

16.12.1現在

校友会名	成績	部員数		校友会名	成績	部員数	
		男子	女子			男子	女子
応援団リーダー部	開校記念祭演武披露	19		グライダー部	久住山岳滑翔大会出場	16	
短艇委員会	全日本カッター競技大会 優勝	74			週末ライト訓練5回実施		
	関東地区カッター競技大会 優勝			ソフトテニス部	秋季関東学生リーグ戦 7部6位	23	
バスケットボール部	男子 秋季関東リーグ戦 4部8位	39	9	ボクシング部	関東大学トーナメント 4部3位	59	3
	女子 春季神奈川リーグ戦 2部5位			レスリング部	東日本学生リーグ戦 2部5位	24	1
柔道部	関東学生体重別選手権出場	46	5	ボート部	全日本選手権大会出場	29	1
ラグビー部	秋季関東大学リーグ戦 2部8位	145		フィールドホッケー部	秋季関東学生リーグ戦 男子2部6位	41	10
サッカー部	神奈川県大学秋季リーグ 1部昇格	64			女子3部優勝		
剣道部	関東理工系学生選手権 男子準優勝	71	11	ワンダーフォーゲル部	双六岳、北アルプス、八ヶ岳登山実施	20	
空手道部	秋季関東リーグ戦 男子1部昇格	76	5	パラシュート部	高尾山天狗トレイル大会出場		
	女子2部3位				日本選手権大会個人Jr. 優勝3年桜井	22	2
	全国国公立大学選手権出場				準優勝4年西平 3位 3年上村		
バレーボール部	秋季関東リーグ戦 男子4部昇格	31	9	準硬式野球部	秋季神奈川7大学リーグ戦 7位	36	
	女子7部2位			合気道部	全国演武大会出場	55	1
卓球部	秋季関東学生リーグ戦 5部6位	16	1	体操部	東日本学生選手権大会 団体12位	27	4
陸上競技部	関東理工系学生大会出場	46	4	弓道部	秋季南関東リーグ戦 男子1部3位	33	4
	東京箱根間往復大学駅伝競走予選会出場				女子2部昇格		
硬式庭球部	関東理工科リーグ戦 男子7部優勝	37	7	少林寺拳法部	関東学生大会 団体演武優秀賞	52	2
	女子8部4位				全日本学生大会 団体演武最優秀賞		
硬式野球部	神奈川秋季リーグ戦 2部優勝	34		フェンシング部	関東学生リーグ戦 フルーレ3部4位	20	
射撃部	秋季関東学生選手権大会 2部昇格	19			サーブル2部6位 エペ2部6位		
	全日本学生大会出場			ウェイトリフティング部	全日本大学対抗選手権大会 団体16位	15	
山岳部	五竜岳、谷川岳、前穂高等登山実施	5		相撲部	全国国公立対抗大会 団体準優勝	16	1
水泳(競泳)部	全国国公立大学大会出場	27	5		東日本学生リーグ戦 2部6位		
水泳(水球)部	関東学生リーグ戦3部6位	19			全国学生個人体重別選手権		
ハンドボール部	秋季関東リーグ戦 4部昇格	24			75kg未満級 優勝4年中澤		
アメリカンフットボール部	関東学生リーグ戦 2部Aブロック	81		バドミントン部	秋季関東大学リーグ戦 男子5部3位	23	9
ヨット(小型)部	関東学生選手権秋季大会出場	19	1		女子4部2位		
ヨット(クルーザー)部	イタリア海軍士官学校・リボルノ市杯	15	1	居合道部	自衛隊全国大会出場	25	3
	国際レース 10位			吹奏楽部	開校記念祭記念式典・観閲式・定期演奏会実施	40	8
銃剣道部	全日本青年大会 団体準優勝	30	6	儀仗隊	開校記念祭記念式典・自衛隊音楽まつり参加	52	2



新学生舎

特別寄稿

小原台の気風伝統

—防大生に講話して—

内田 芳郎

“防衛大学校建学の精神”これは、一介の卒業生にすぎぬ無名の筆者が、過日、防衛大学校の大講堂で1学年生とパレード訓練に参加しない上級生等1,000名の学生を前に講話したときの演題である。演題といい、しつらえられた舞台と講師の取り合わせといい、にわかには信じがたい光景である。なによりも私にとっては夢のような出来ごとであった。

それは正直いってこの上ない晴れがましいことであったが、同時に、恐れ多いことであった。私の観念の中には防大生は神の子というのがあった。これまで、そのようなことにはおよそ無縁の私には、心の備えもなく、名状しがたい戦慄におそわれた。

はずかしながら、それは重ねた馬鹿の効用となかば破れかぶれの度胸で克服したが、いままた、本稿でその体験を繰り返そうというのである。それは、ひとり神の子のみならず幾多同窓生の聖なる母校像への挑戦ともなりかねず、心は揺れる。だが、編集者の期待にこたえるためには、進むしかない。この成り行き上、その経緯から入ることをお許し願いたい。

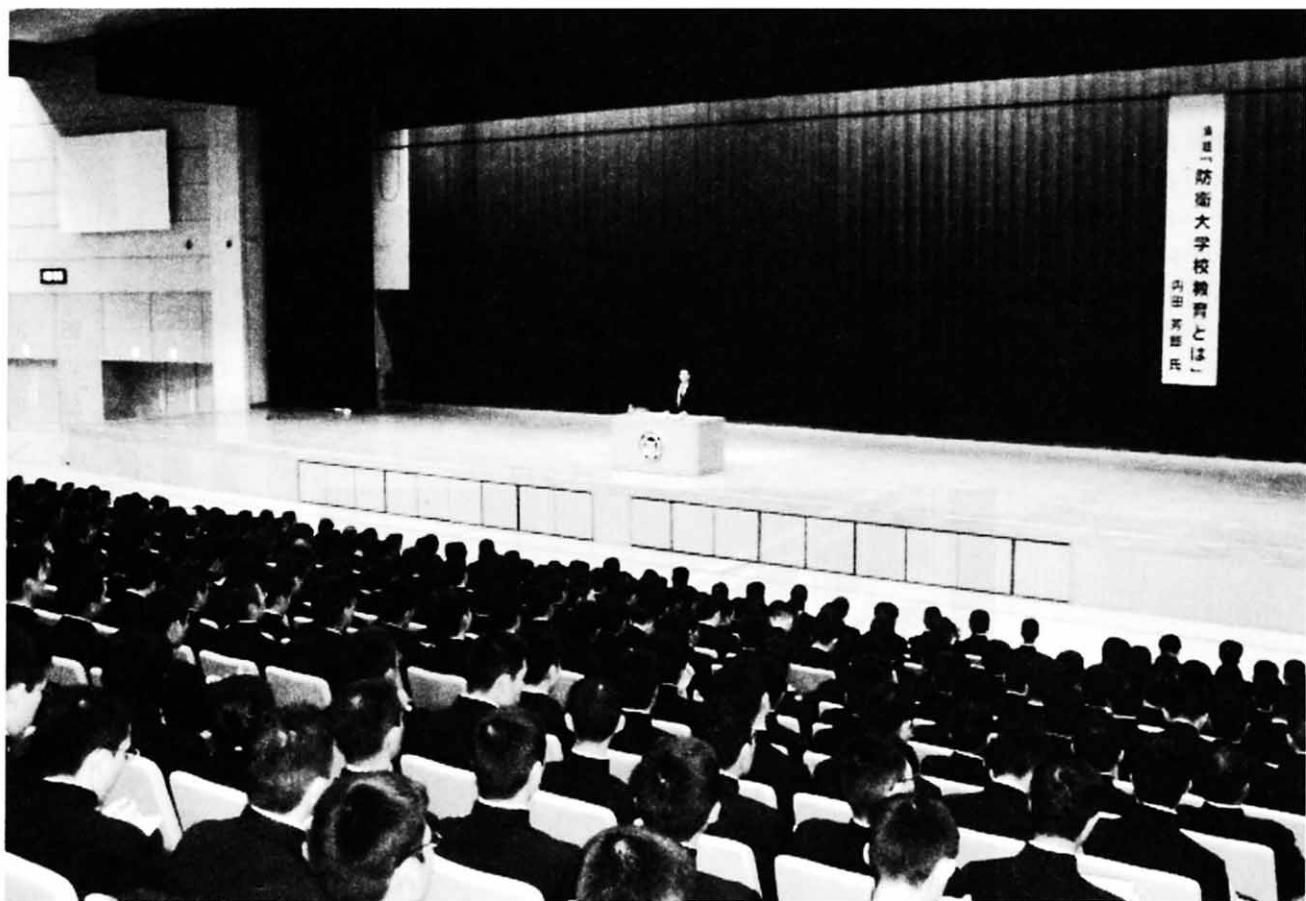
建学の精神

それは、拙文『防衛大学校教育とは何だったのか—横智雄論の試みー』^{ちんじ}がもたらした椿事と言った方が早いかも知れない。

この一文は、防大50周年の期に、私の奉仕している世直し団体のオピニオン誌の企画に応えるかたちで、余白穴埋めの責任を果たしたまでのものであったが、ふとした縁から、関係者の目にとまり、防衛大学校の「学生必携」に収録されるという、思いもかけない出来事が起きていた。母校での講話はその後日譚である。

さて、私が「建学の精神」として語った中身は、建学の草創期、初代校長横智雄氏の想念にあった教育の理想が、確かな理念となり不動の信念に結実するまでの、心の逼歴をたどったものであるが、このような神代の昔話が、はたして50年後の今日、育った時代も背景も異なる今どきの学生に通ずるのだろうかという不安は、講話を引き受けるに際しもっとも頭を痛めたことであった。

だが、私は、横智雄論を試みるにあたって、氏の講話集や、著作を紐解き、氏の教育に賭ける熱い情熱には、



殉教者のような激しい魂と精神を感じ取っていたし、進んで止まざるその気迫と実行動力には、人をして何ものかを感じさせずにはおかしいものを感じていた。

軍隊とは縁もゆかりもない私学の一学者であった氏が、新国軍の幹部養成学校の校長を懇請され、占領から独立を回復したばかりの、新旧価値観の相克する混濁の世で、世間の様々な期待と非難を一身に背負い、学生を鍛え、慈しみ、且つ教え、手本のない幹部像を求めて、未知の荒野を切り開いていく姿は、氏の厚恩と薰陶を受けたものには感動を与えずにおかなかっただろう。それが同時代的に自覚されるものであったかどうかは別にしても、温容な表情に知性の微笑みをたたえ、深遠なまなざしから語りかけられるその洗練された言葉の一つ一つに、学生で、魂を奮い起こされ、心癒され、戒めを感じないものが一人としてあったであろうか。それは、実践躬行の教育者にして初めて可能な教育だったのである。もちろん、校長を語れば防大50年の歴史には、立派な足跡を残した人も一人ならずあるだろう。けれども、誰もが提示し得なかった新国軍の幹部像を求めて、未知の荒野に挑み13年の星霜をかけて、世界に類まれな学校像を描き小原台の学風と伝統の礎を築いた人は横氏をおいてほかにない。この姿は、青春を小原台に賭ける若人には、必ず理解され、共感を呼ぶに違いないと思った。

はたして、その予感は裏切られることはなかった。それどころか、聞き入る学生の真剣なまなざしや身につまされるような質疑を通して、学生の悩みや関心や問題意識の所在を知り、往時の自分の体験と思いあわせ感慨深かった。そこに時代のへだたりを感じさせるものはなかった。それが全学生に通有する心の風景とは言い切れないので、端正な風姿や厳正な挙措容儀からはうかがいしれない深奥に、その学風伝統は生きていることを知って安んずるところがあった。小原台の学風伝統は決して、安易や氣楽なものではない。その環境は、苦労しらずの野籠坊の専門家を育てるのではない。悩み多く、疑い、批判精神を持った高い教養人を育てるのである。そこを経なければ、新国軍を担う立派な幹部は育たないというのが、横氏の信念であったのである。こんにち脅災されている「広き視野をもった人」とはこの高き教養を持った人の謂いほかならない。

気風と伝統

だが、そもそも、なぜ、横智雄論なるものに挑んだのか、わたしにはもう少し丁寧に説明する必要があろう。それは偶然が生んだ因縁ともいおうか、卒業以来まったくの無縁であった小原台を、思わぬことから訪問したのが偶然なら、そこで、初代校長横智雄氏の胸像といっしょに学生綱領の碑を発見したのも偶然であったが、横智雄論へと進むには必然の因縁があった。

学生綱領それは、私に小原台を忘れがたいものについていた。それは後輩の期で完成したものであったが、私はその綱領の初代起草委員長として、学生綱領起草作業の着手とその道筋をつけるのに大きく関わっていた。しかし、それはあくまで私個人のひそかな郷愁以上のものでなく、学生綱領になじみのうすい先輩たちの目に、かりに、後輩たちの無邪気なパフォーマンスの産物ほどにしか映っていないとも仕方のないことと思っていた。それゆえ、この「学生綱領」に横氏の深い思い入れがあったのではないかと気づいたときの驚きは大きかった。学生綱領起草の動きは昭和38年秋の開校11周年記念祭の式辞「伝統は誰がつくる」によって浮上した。氏は昭和40年1月、9期生の卒業を待たずに退官するが、その卒業生に寄せた一文で万言を費やし、学生綱領の誕生を喜び、それを作った学生達の功績を称えている。

綱領碑には「礼節、廉恥、真勇」の徳目の誓いが刻まれている。その形式文言がその意に沿うものであったどうかは別として、思えば、学生綱領は、横氏の深い思い入れが産んだという意味では、建学者としての後世へのメッセージでもあったのである。

横氏は昭和27年の学校創立以来、新しい幹部像を求めて師弟同行の旅を続け、未知との戦いと心の遍歴をへて、不動の教育理念に到達する。その転機となる昭和31年晚冬の、米英仏士官学校歴訪の旅を経て、ゆるぎないものになった理念とは、防大は「人間教育の場」であり、そこでは、直ぐに役立つ知識技術の詰め込みや、単なる専門の積み重ねによってではなく「広く深い学問を身につけること」と「厳格な規律の実践による人格陶冶」によって人間をつくるというもので、それら学問も厳格な規律の実践も、すべて学生の自由意志と、自主自律によって行われなければならないとするものである。

この自由意志と自主自立の精神こそ横教育の真髓であった。とくに、厳正な集団規律への服従という軍人教育的要素を、高邁な徳操の自律的涵養という普遍的な人格陶冶の概念にまで高めた横氏の頭の中には、米陸軍士官学校アナポリスで見た学生たちの「あの際だって端正な風姿、きびきびした動作や厳格な挙措容儀、応接の間に現れる教養と知性、又礼節を弁えた鮮やかな身のこなし」があった。そのたままで、ためらわず、自然に行われる様に、理想とする人間教育の極地を見るのである。

これは、「嘘つかず、欺かず、盗まず」という3つの戒めと、この破戒を自他ともに許さじとする厳しい問責機関をあわせもった「オーナーコード（名誉綱領）」制度にも連動していた。学生はこの「オーナーコード」を自らの名誉に賭けて守り、破った場合は直ちに申し出て、ハイポートから謹慎、退校まで含む罰に服するというものである。横氏は思うのである。人間をつくるのは「学問」だけではない、軍人教育の典型と見た「厳格な規律への

「服従」もそこに服従する者の自由意志が存在すれば、立派な人間教育になる。この気風はわが小原台にも伝統として根づかせたいものであった。

これを学校管理者として模倣し学生に与えることは容易であったが、「人間教育」を信条とする教育者としてはあくまで学生の自由意志と自主自律によらなければならなかった。

これは、氏の学校建設の原点となった「これからは民主主義の世の中だ」という、時の総理吉田氏のことばから「士官教育もまた昔のままには行かぬ」と自らに言い聞かせ過去と訣別を決意した楨氏にとっては、必然の結論でもあったのである。まかり間違っても「国を誤った軍人」の精神注入に墮してはならなかった。

しかし、楨氏には自信があった。小原台は新地にきづいた若者の鍛錬修行の道場であったが、すでに、その気風醸成の機運は満ちており、やがて卒業生が帰ってくれば、伝統として根づくはずであった。だが月日に容赦はない。そこまで待てない退官の日は迫り、学生への呼びかけとなったものである。

建学者の遺言

楨氏の悲願ともいべき気風伝統への執念は、学生綱領となって芽をだした。が、その芽は楨氏の夢みたよう格調高い気風伝統となって育ったのであろうか。

わたしは、学生との質疑で、彼らの関心が、自分の進路に関する迷いと、自分がかかわる日々の生活上の問題であったことに強い印象をうけた。その率直な質問とその勇気に好感をもったが、今日、学生も制服の指導官も背広の教官も、理想と現実のはざまで、学問と厳格な規律の調和に悩んでいると聞いた。だが、自由の精神のもと、学生が自ら鍛錬修行することが本校の建学精神であったとすれば、学生が深い悩みや疑問をいただきその解決を求めて苦闘する姿は本来の意味においてまことに健全なことと言わなければならない。

しかし、限られた時間と厳格な集団規律の中で広く深く学問することを宿命づけられた学生が、高い教養と高邁な人格を持った人間へとあくなき向上をめざし、苦闘の果てに挫折してしまっては元も子もない。そこに、挫折させぬよう学生をみまもり、あくなき向上へといざなわなければならない教育者の使命がある。そのことを誰よりも知っていたのは建学の父楨氏であった。建学の父は実践躬行した。学生綱領、それは、氏なきあと、氏に代わり、苦闘する学生の心に何かを語りかけ、勇気と力をあたえるものだったのである。

だが、学生綱領には荷が重かった。そのことは楨氏に痛いほどわかっていた。氏は晩年、わが国の歴史と伝統にふれ「防衛には、わが国長年の歴史と伝統があり、また経験がある」とのべている。校長在任間たえてなか

ったことである。それは建学にあたり、ひとび訣別した道であり帰ることのできない道であった。だが、この「わが国の歴史と伝統」こそ、小原台の気風伝統に一点の影を落としていたものである。楨氏は、すでに、ウエストポイントやアナポリスでこのことを深く心に刻んでいた。それは、あの学生たちの見せた、端正な容儀、きびきびとした動作、進んで服する厳格な規律、垣間みえる洗練された知性等、それらは、何事か悲壮な決意のもとに行われているのではなかった。それは当然のように行われていた。

なぜか。楨氏は、その答えを礼拝堂で祈る学生の誓いの言葉に見出すのである。それが、困苦と欠乏と危険と戦いながら、勇敢に未開の原野や荒蕪の地に挑んだ、彼らの祖先たちの、安易に屈することのない激しい生活と、艱難に立ち向かう強靭な精神に由来することを知って、父祖の伝承の大切さを思うのである。また、礼拝堂には、祖国のために命をささげた英雄たちの記憶が残されていた。ここに佇めば、学生達は言わず語らずうちに、父祖ことばを聞くことができる。「オーナーコード」もアメリカ人の歴史と伝統が生んだ制度であった。

民族の歴史と伝統、それは百の説法に勝る。楨氏はそのことが悔やまれるかのように、退官直後から堰を切ったように一文を綴っていく。そして大胆にも、「今日、自衛隊は、以前の陸海軍と違って、まったくの独自の構想に立つと聞いている。しかし、かつての陸海軍の歴史や伝統を語らずして何が残るだろう」と述べるのである。それは世界に類まれな学校をつくった建学者の、万感の思いをこめた後世への遺言と受けとめられるべきものだろう。世のなかは、わが国が敗戦後の迷妄から覚めて自身をとりもどす時代とも重なり、直木賞作家司馬遼太郎の「竜馬がゆく」が世に出たときでもあった。氏は2年後に去った。

歴史と伝統、それは継承すべきものである、しかし、又、創るものもある。「伝統は誰が作る」。建学者が残した魂の叫びは今もなお斬新な響きをもっている。

時代は大きく回転した。いまや、若い卒業生は海外に雄飛し、本当の意味での國軍の指導者になることが求められている。ここに、建学の精神がよみがえり、学生綱領に新しい生命が宿り、小原台の気風と伝統に、清新の気がみなぎることを願わざにはいられない。そんなことを思った母校での一日であった。

(了)
(8期生 日本郷友連盟常務理事)



防大に対する支援

目に見える支援

同窓会は、従来から校友会活動や開校祭に物心両面の支援を行ってきましたが、近年防大を卒業した新会員の中には同窓会の支援の実態を知らない者が多いことが判明しました。このため、同窓会として学生によりアピールする「目に見える形での支援」を実施することとし、具体的に何を行うかをアピール度、方法、経費等の種々の要素について検討してきました。その結果、全学生に強い印象を与え、また卒業後も永く記念として残るものとして今や防大名物といわれるカッター、断郊、棒倒し等の各種校内競技の副賞として同窓会の刻印のある記念メダル、キーホルダー及び銘版つきのレプリカを寄贈することになりました。

(メダル及びキーホルダーは個人に、銘版つきのレプリカはチームに授与)



更に、表彰及び支援金の交付に際しては、全学生の前で小原台事務局長から手渡すように防大側と調整しました。

今年度は9月に実施された水泳競技から記念メダルを、また、5月に実施されたカッター競技については遡って銘版つきのレプリカを寄贈しました。

来年度以降も継続的に下記の支援を行うこととしています。

競技種目	時期	副賞の種類	数
カッター	4月	メダル	48
		優勝レプリカ	1
水泳	9月	メダル	42
		キーホルダー	70
棒倒し	11月	優勝レプリカ	1
		キーホルダー	236
体育	12月	優勝レプリカ	1
		メダル	24
断郊	3月	優勝レプリカ	1
		メダル	15
持続走	3月	優勝レプリカ	1
		メダル	15

開校記念祭に対する支援

11月8日、防衛大学校学生食堂において、開校記念祭支援金の目録贈呈式が行われた。

この贈呈式は、同窓会活動の「防衛大学校学生に対する目に見える支援」の一環として行われ、全学生の見守

る中、防衛大学校同窓会小原台事務局長（川上一等空佐）から開校記念祭学生委員長（第4学年 大岩学生）に開校記念祭支援金の目録が贈呈された。



▲開校記念祭支援金の目録を手に「ありがとうございます。」と話す開校記念祭学生委員長
第4学年 大岩学生



▲小原台事務局長（川上1空佐）の訓辞

防衛大学校顕彰室の整備について

小森谷・井出記

平成17年3月、防衛大学校校内に顕彰室が開設されます。

顕彰室は、新たに開設される防衛大学校資料館の二階の一角に設けられます。

顕彰室は、「防衛大学校卒業生で自衛隊員として殉職した者並びに防衛大学校学生で殉職した者及びそれに準ずると認められた者の遺徳を顕彰し、学生補導に資する」ことを目的として設置されたものです。

また、資料館は、将来の幹部自衛官となる者を教育する機関として、学生の精神的支柱となりうる「建学の精神」「防衛大学校の理念」「防衛大学校のあゆみ」を展示し、あわせて学生・卒業生の活躍を顕彰する等、精神面の感化を与える場として整備され、資料館と顕彰室は一体となっています。

一方、防衛大学校の見学者及び受験者の増加傾向に対応するための広報拠点の役割も期待されています。

そもそも防衛大学校顕彰室は、昭和44年11月1日に当時の図書館の3階に、本校卒業の殉職隊員の遺品等を展示し「その遺徳を顕彰し、学生補導の資とする」ことを目的とし開設したのが始まりです。その後、平成10年には旧図書館の取り壊しにともない、顕彰室にあった遺影、遺品等は学生会館同窓会室に仮保管されてきました。この度の顕彰室整備によりこれらの遺影、遺品等は顕彰室に隣接する控室（卒業生コーナー）に備えた収納棚に収められることになります。

また、昭和57年には防衛大学校創立30周年記念事業のひとつとして防衛大学校同窓会から「顕彰の碑」が防衛大学校に寄贈され校内に設置され、同窓会行事として毎年11月の開校記念祭に合わせ顕彰献花式を碑前で執り行ってきました。

なお、顕彰献花式は平成16年度からは学校行事となりました。

このたびの顕彰室整備の経緯は、次のとおりです。

- ① 平成7年5月、防衛大学校創立50周年記念事業委員会が設置された。この下部委員会として「資料館事業委員会」が設けられた。
- ② 平成8年度の資料館事業委員会において資料館に顕彰室を整備する基本方針が決定し、平成10年12月に了承された。
- ③ 平成11年6月、資料館を前図書館の1～2階を改修し開設する方針が決定された。
- ④ 平成12年5月、防衛大学校創立50周年記念事業推進会議が設置され平成13年1月に資料館展示基本構想が、そして平成16年2月には展示実施設計が策定された。
- ⑤ 平成15年6月、資料館の開館時期が平成16年度末に決まった。

左記の経緯のなかで、防衛大学校同窓会は平成10年10月、顕彰室にモニュメントのようなものを寄贈したい旨申し入れ、以後、学校側と幾度もの調整を行い平成15年2月27日の防衛大学校との調整会議で同窓会が刻銘板作成と取り付け費用の負担及び調度備品を寄贈することで合意しました。

平成15年6月、50周年記念事業委員会の解散にともない、9月に50周年記念事業の継続事業（顕彰室・卒業生コーナーの整備事業）として防衛大学校同窓会事務局事業部が引き継ぎました。

平成15年9月以降、防大施設課、訓練課、学生課、同窓会の担当者が防衛大学校にあつまり、コンサルタントをまじえ、提案された複数の顕彰室レイアウトのイメージ図を検討し、15年11月に採用案を同窓会会長、校長にそれぞれ報告し了承を頂きました。引き続き、石の銘板の字体、説明文、検索システム、控室（卒業生コーナー）の調度備品（机、椅子）、室の色合わせなどの検討と選定を進めてきました。

顕彰室のレイアウトは、幅11.5m、奥行6.5m、高さ2.8mの室空間に黒御影石300枚の銘板からなる幅6m、縦1.6mの石板を正面に据え、両脇には向かって左に顕彰室説明板を、右に顕彰データ検索装置を設置し、台上中央には防衛大学校の校章（レリーフ）を浮かび上がらせてあります。室内はベージュ色を基調とし調光可能な間接照明を取り入れ、出入り口を2ヵ所としています。

1枚の銘板には、殉職者氏名、期別、殉職者に関する記事等が刻銘されており、現時点では88枚が刻銘されています。

顕彰データ検索ソフトには、50音別、期別、所属別（防大、陸、海、空）検索や殉職者に関する顕彰データが整理され、タッチパネル方式で表示されます。

顕彰室に隣接し控室（卒業生コーナー）として、顕彰室を訪れた卒業生やご遺族等が遺影、遺品に接し故人を偲びまた親しく談話できる場所を用意してあり、2つのテーブルと20脚の椅子が準備されています。

平成17年3月に顕彰室が開設された暁には、是非とも、同期生を誘って防衛大学校資料館・顕彰室を訪れ、殉職された先輩、同期、後輩の遺徳を偲ぶとともに青春の思い出や防衛問題等の談話の場としてご利用下さい。

中期事業

同窓会ホームページ

防大同窓会ホームページ(HP)は、平成15年度のMCI(Military Cyber Institute)事業の一環として、同窓会員のボランティアの運営要員で試行的に開設されました。平成16年度からは内容の一層の充実を図るために、技術面での専従の運営要員1名を配置して4月末から本格運用を開始し、7月には同窓会事務局員1名をHP担当に指定し運営態勢を充実しました。

現在のHPの主な内容は同窓会本部の活動状況を会員に周知するとともに、同期生会及び同窓会地域支部等の活動情報の中継基地となるように、次のような項目を設けています。

目次、同窓会会則、会長挨拶、本部・事務局、地域支部、同期生会、意見交換、お知らせ、会議室予約、校友会活動OB、リンク、新着写真集、その他最新のトピックス等

最近ホームページで紹介した主な内容は次のとおりです。

- ・北陸支部のボランティア活動
- ・同窓生子弟の救済活動支援
- ・「あり方」アンケート調査結果
- ・同窓会の著書紹介（会員からの提案により掲載）
- ・「防大逍遙歌」の紹介（音楽入り）（会員からの提案により掲載）
- ・囲碁、ゴルフ、テニス大会等
- ・新着写真集（自衛隊記念日観閲式、防大開校祭）

なお、今後は著書紹介に加え同窓生が主体として実施する事業等についても①会員相互の親睦・交流の増進②母校の充実・発展③防衛意識の向上・普及④社会的活動に寄与するものについて積極的に紹介するとともに、地方選挙・国政選挙の候補者等の紹介についても検討しております。また、「16年度小原台だより」の発刊にあわせ電子版「小原台だより」についても、掲載を予定しています。

インターネットは古代の紙の発明、中世の印刷機の発明、近代の無線電信の発明に匹敵する現代の革命的な情報ツールであり何時でも、何所でも、誰でもアクセスできるのが特徴です。日本だけでなく広く世界中で活躍する2万余名の同窓生が、インターネットを通じネットワーク化され情報を共有し、また発信することも可能です。同窓会ホームページは、そのための共通の広場となるものです。同窓生は、ホームページの読者であるとともに、作成者でもあります。コンテンツの充実のためにには、同



窓生皆様の投稿が不可欠ですので、積極的な投稿をお願いいたします。

投稿先E-MAIL: honbu@bodaidsk.com (整理のため本文冒頭に事務局HP担当宛と記載して下さい。)

事務局広報(HP担当) 西

MCI事業の平成16年度の実施状況について

13期(空) 新治 肇

MCI事業について、不案内な会員もおられると思いますが、紙面が限られているので、今までの小原台などを読んで頂くとして、事業構想の概要について述べた後に16年度の実施状況などを述べます。

1 MCI事業の構想

1. MCI事業の趣旨

わが国の国家運営では、何か物事を決めるに際して、政治・経済・外交・安全保障（以下、本文では軍事と表現する）の4本柱のうち、軍事的視点が抜けていることが多い。これには幾つかの原因があるが、その一つは、軍事に関する知識や体験が整理総合されていないため、軍事的視点からの考察をすることが難しいことである。

政治、経済、外交についての政策判断や学術研究をする際に、参考にできる「軍事的識見が整理総合されているセンター」が無いために、どうしても軍事的な視点が

疎かになるのである。

他方、現在の政治・外交・経済界では、それを良いことに、意識的に軍事的な思考を排除する傾向さえある。反対に、これに気がついている政治家、財界人、外交官は多いのだが、自分の力で軍事・防衛に関する識見を整理統合する余裕がないのが現状である。

ここに提案する「MCI (Military Cyber Institute) 構想」は、このようなわが国の現状を改善するために、防大同窓生の力を結集して国家・社会のための活動を展開しようとするものである。

2. MCI事業の活動（内容区分）

MCI事業の活動は、内容によって二つに区分する。すなわち、同窓会員自身のために行うサービスである「自主活動」と、他の組織や個人から委託された活動を有料で行うサービスである「受託活動」である。任意団体である同窓会が、同窓会員のため「自主活動」を行うことは当然であるが、運転資金を確保するため有料で行う「受託活動」は原則として不可能である。したがって、当初は「自主活動」を行い、その実績を見て同窓会が「何らかの組織」を作る段階においては、その組織の性格によっては「受託活動」が可能となる。それぞれの活動の内容については、(1)自主活動としては、情報システムの構築、ホームページサービス、掲示板サービス、軍事的知見保有者の紹介、軍事関連情報及び資料の紹介、パネルディスカッション、講演会の開催、ボランティア活動支援などである。また、(2)受託活動としては、軍事専門家の派遣、軍事関連情報及び資料の紹介、スピード翻訳、防衛関連資料の電子化、管理者或いは子供教育、徳操教育など教育、軍事関連資料の収集、軍事関連資料の作成等防衛諸活動支援等である。

3. 活動の段階的区分（フェーズ）

MCI構想は、本来、中・長期的なものであるから、「小さく産んで、大きく育てる」を原則とし、活動は次のような5つのフェーズ ●フェーズ1（防大ホームページ開設段階）、●フェーズ2（情報システム構築段階）、●フェーズ3（タスク・フォース編成段階）、●フェーズ4（デモンストレーション段階）、●フェーズ5（新組織発足段階）の5つのフェーズに区分して段階的に充実し発展させる。（以下略）

2 平成15年度実施成果

平成15年はフェーズ1（防大ホームページ開設段階）として、次ぎの事業を実施した。

- (1) 防衛大学ホームページの一部として存在していた同窓会ホームページを同窓会本部へ設定した。
- (2) ホームページの段階的充実に伴い、所要に応じ、ドメインの借用及びこれに伴うサービスの提供等

に関するプロバイダーとの契約を実施した。

- (3) 同窓会システムの試験運用開始のために、同窓会ホームページ構築および維持担当1名を有償による確保した。（MCI担当責任者は未指定）

3 平成16年度実施計画、成果、及び検討の状況

平成16年度は、フェーズ2（情報システム構築段階）として、次ぎのとおり事業を計画し、所要の成果を得つつある。

(1) 16年度MCI業計画の概要

ア. 15年度に立ち上げた同窓会システムの運用を逐次開始する。開始に当たっては本システムの重要な要素であるホームページの運営及び拡充を重視する。このため管理運営組織の段階的構築、MCI準備室の整備及び要すれば各期生会・地域支部等との所要の調整を行う。

イ. 準備委員会において次の事項にかかる検討を推進する。

- ・同窓会システムの運営維持、拡充に関すること
- ・同窓会システムの運営組織に関する事項
- ・18年度以降の「何らかの組織」に関する事項
- ・その他、実施すべきと判断される新規時事業に関する事項

(2) 16年度の実施成果及び検討状況等

ア. MCI委員会の拡充と委員会における各種事業等に関する検討

(ア) 開催の状況

武田同窓会副会長及び新井同窓会本部事務局長の陪席の下、第7回を5月27日に、第8回を6月9日に、第9回を9月21日に、第10回を10月4日に、第11回を11月19日に実施した。

(イ) 委員会の拡充と構成等

委員長：小林一雅氏（空：8期）
委員：荻野正憲氏（海：9期）
委員：井本尚英氏（陸：9期）
委員：若木利博氏（陸：10期）
委員：牧田正紀氏（海：13期）
委員：中治一秀氏（空：14期）
委員：新治毅氏（空：13期）

イ. 16年度事業の実施状況

(ア) ホームページの運用については同窓会本部事務局長の指示の下、専従者を確保して順調に進捗している。ホームページの拡充についてはMCI準備委員会での検討成果を逐次同窓会本部事務局に提供し、その実行を提案している。

(イ) 検討事項に関しては4回に及ぶ準備委員会を開催し、現時点で次のような結論を得ている。

- ① ホームページの開設・拡充は、MCI事業の第一歩として極めて意義深いものである。今後はさらに、「MCI事業は、50周年記念事業の一部であり、浄財を寄付した同窓生の意思を尊重すべき」との認識に立って、拡充すべきである。
 - ② ホームページの拡充に当たっては、記事の取材、部外者に対する協力依頼、各種情報等の収集整理、及び同窓生との連絡調整を担当する専従者を有償により確保することが必要である。
 - ③ 期生会及び地域支部等との関係については、それぞれが有するホームページとのリンクを充実させるため、同窓会としての協力依頼を行うことが必要。さらに各ホームページが有する情報等を収集整理し、同窓会ホームページに掲載することが必要。この際、同窓生個人のホームページもその対象とする。年度内にリンクのモデルを作成し、試行運用する。
 - ④ 受託事業に関しては、同窓生の期待、やる気等に関する実態を把握するために、各種情報、資料等の提供を促進するために必要なメッセージをホームページに掲載することが必要。
- ウ. MCI準備委員会は、年内に①専従者の求人広告、
②貢献志願者の登録要領、登録情報を収集整理するためのカテゴリー区分及びフォーマットを検討し、同窓会本部事務局長に提案する予定である。

4 来年度の実施予定事業（17年度事業計画）

（1）実施事項

MCIの趣旨が「同窓生の軍事に関する識見を結集して、国家・社会に対し軍事的考慮の重要性を正しく発信することであるとの認識のもと、次の事項を推進する。

- ア. 16年度に引き続き、MCI事業の第一歩であるホームページの拡充について検討し同窓会本部に提言する。
- イ. MCI管理運営組織については、本部事務局長の下に設置する方向で検討する。
- ウ. 受託事業については、同窓生の関心の度合いを分析検討し、実施事項、実施要領について17年度末までに結論を出す。

なお、下記のとおり、MCI準備委員会では、1名MCI事業専従者を募集しています。希望者は、自薦、他薦をとわざ応募されたい。

また、同窓会ホームページのアドレスは次ぎのとおりであるので、利用されたい。

<http://www.bodaidsk.com/>

MCI準備委員会からのお知らせ

1. MCI準備委員会の活動状況

MCIとは Military Cyber Institute の頭文字をとったもので、防大創立50周年同窓会記念事業の一環として、「全国にちらばっている同窓生の軍事に関する識見を結集して国家・社会に対して軍事的考慮の重要性を正しく発信するメカニズムを構築してはどうか」という提案に基づき発足した事業です。

平成15年度から準備委員会が発足し、平成18年にMCIが正式発足するための準備活動を行っています。平成16年4月、ホームページ担当者を指定し、同窓会のホームページを開設しました。

現在検討中の事項

- ◇ 防衛関係資料の整備（関係先へのリンクを含む）
- ◇ 防衛協力者の登録（例：防衛講話、戦史研究、語学、特殊軍事技能）
- ◇ 貢献志願者の登録（例：災害時のボランティア活動、隊員募集支援、基地行事等支援、趣味・生甲斐分野の指導）

2. MCI事業専従者の募集

現在ホームページ作成要員として1名確保してあるが、その作業量とその業務内容の違いから判断して、ホームページ担当者とは別に、MCI事業専従者をとりあえず1名有償で確保して準備を進める必要があると考えます。

希望者は自薦他薦を問わずご応募下さい。

MCI事業専従者の業務

- ① MCI事業の全般企画、調整、関係先訪問等
- ② 防衛関連の著作、論文、資料の収集・登録（リンク交渉を含む）
- ③ 防衛能力者の選考・登録
- ④ 貢献志願者の募集・登録

応募要項・待遇

自薦他薦に基づき本人の能力、意欲を判断し事務局長が選考。週4日、1日4時間半勤務、常勤を前提、月額10万円基準、交通費別途支給。

略



第6回目のホームカミングデー —2004年度ホームカミングデー、 第6期生の番来たる—

卒業生の皆さん、「ホームカミングデー（HCD：Home Coming Day）」という言葉を聞いた事がありますか、防衛大学校のご厚意で、「防大卒業生の人生の節目に、良きもあり悪しきもある防人の原点である故郷（走水の地）に集い、若人の晴れの門出に接し、さまざまの想いに・・」の機会を持つことが出来ました。これが、ホームカミングデーです。なかなか自分の期の番が迫らないと興味が湧きませんね。

今年度は、1998年度卒業式に第1期生が招待されてから第6回目になります。6期生の皆さん、該当します。現在、6期生会長、高橋様を中心に着々と準備が進んでいます。

昨年度のホームカミングデーを見ていますと、奥様に色々と説明している人、車椅子でお子様と、独りで佇む人とさまざまの想いを巡らし卒業式で若人の門出を心から祝い、感激し、懇親会では明るい笑顔で旧交を温めています。

昨年度の防衛大学校長 西原正氏の式辞（2004.3.21）に「・さらにこの式典には、43年先輩の防大5期生の方々をホームカミングデーとしてお招きしており、これらの大先輩も、若い後輩諸君の門出を祝福して下さっています。・」と紹介をいただいております。

6期生の皆様、下記のようにホームカミングデーが実施されます（詳細は期生会が準備中です）。例年、卒業式は日曜日ですが、今年度は月曜日ですお間違え無いようお願いします。

（記事：防大同窓会事務局HCD担当）

2004年度のホームカミングデー

「卒業対象学生：本科49期、理工学研究科前期42期、理工学研究科後期2期、総合安全保障研究科7期」

1 実施年月日 2005年3月21日(月)

2 実施場所

- | | |
|-----------|------------|
| (1)卒業式 | 防衛大学校講堂 |
| (2)観閲式 | 防衛大学校陸上競技場 |
| (3)総会・懇親会 | 防衛大学校学生会館 |

「防大同窓会のあり方」答申 (第1次案)について あり方検討委員会

1 あり方検討委員会の活動状況等

「防大同窓会あり方検討委員会」（以下「あり方検討委員会」という。）は、平成15年12月に会長直属の委員会として設置され、「長・中期的視点から同窓会のあり方を検討し、同窓会運営施策の資を得る」ための活動を実施してまいりました。特に昨年（16年）4月～5月に広く会員の皆様に対してアンケート調査を実施するとともに、併行して9月末までに「同窓会のあり方」について17回以上の検討会合を重ね、その審議結果を「防大同窓会の健全な発展のために」（第1次案）（以下「答申（第1次案）」という。）としてまとめ、10月8日理事会に、12月17日定期代議員会に中間報告致しました。

アンケート調査結果については、「同窓会のあり方」検討等の参考にするとともに、「アンケート調査結果報告書」を作成して10月8日の理事会に報告し、「同報告書」の内容のほぼ全文を10月中旬に同窓会ホームページに掲載して会員の皆様に対する報告とさせていただきました。（防大同窓会のホームページ：<http://www.bodaidsk.com> 参照）

中間報告された答申（第1次案）については、昨年10月下旬～11月中旬に、各期生会会長及び各地域（地区）支部長等に送付してご意見・感想等をいただき、これを踏まえて昨年12月～本年1月に答申（第1次案）を再検討し、あり方検討委員会の最終的な報告文書の作成等に反映したいと考えております。

なお、「防大同窓会のあり方」に関する最終答申文書についても、平成16年度末までに理事会あるいは定期総会に報告した後、ほぼ全文を同窓会ホームページに掲載し、全会員の皆様への報告とする予定です。

2 「防大同窓会の健全な発展のために」（第1次案）の概要

(1) 答申（第1次案）の構成等

答申（第1次案）は、A4版・約40頁の文書であり、内容的に大きく4箇章から構成されていますが、「はじめに」「1 防大同窓会の目指すべき方向」「2 防大同窓会の現状と課題・問題点等」「3 防大同窓会の改革の方向及び具体策」「4 防大同窓会の改革・改善に沿った移行要領等」「おわりに」の順に記述し、付録として「あり方検討委員会の活動状況等」及び「あり方検討委員会の委員等名簿」を付しています。

(2) 「1 防大同窓会の目指すべき方向」の構成と内容

第1章は、「(1) 防大同窓会の必要性」と「(2) 防大同窓会に具備すべき要件」の2箇節から成り、先ず防大同窓会の必要性として、一般に同窓会は、「単に昔を懐かしむ「仲良しクラブ」的な親睦団体だけではなく、同窓生各人が自分のアイデンティティ（帰属性）を明確にする場」であるとし、さらに「防大同窓会は、国防の中核を担う「士官」学校卒業生の集まりであり、現職会員も退職会員も同じ「運命共同体の一員」であることを強く意識した団体であり、会員相互に「同期・先輩・後輩」の同志的団結が強く、モラルも高い。またその活動内容に対する欲求も広範囲にわたる傾向がある。反面、同窓会活動を運営するために必要な多種分野にわたる人材の不足、財務基盤の脆弱、現職会員の活動上の制約、あるいは複雑な人間関係などによって、その活動には限界があるという特性がある。」とその特殊な面を強調しています。

その上で、一般に同窓会に具備すべき要件として、①同窓会の「継続性」②同窓会員の「参画性」③同窓会活動の「健全性」④同窓会運営の「適合性」⑤同窓会基盤の「安定性」の5要件を説明し、さらに防大同窓会に具備すべき要件として、①同窓会員の「共助性」②同窓会活動の「社会性」③同窓会の「国際性」の3要件を備えることが望ましいと考察し、防大同窓会の目指すべき方向を明らかにしています。

(3) 「2 防大同窓会の現状と課題・問題点等」の構成と内容

第2章は、「(1) 防大同窓会を取り巻く環境の変化等」「(2) 防大同窓会の生い立ちと現状」「(3) 防大同窓会の課題・問題点等」の3箇節から成り、先ず自衛隊や母校防衛大学校あるいは防大同窓会を取り巻く環境の変化を概括的に記述し、次いで防大同窓会の44年間にわたる発展の歴史を振り返りつつ現状を明らかにし、その上で防大同窓会の課題・問題点等について、「同窓会の目的と事業・活動の重点」「同窓会員の資格及び意識」「同窓会の組織」「同窓会の機関」「同窓会の役員等」「同窓会の活動基盤」「同窓会の財務基盤」「同窓会の各種事業活動」の8項目に区分して、直面している課題や問題点等を簡潔に記述しています。

(4) 「3 防大同窓会の改革の方向及び具体策」の構成と内容

第3章は、答申第1次案の核心となる章であり、「(1) 改革・改善の考え方とその背景等」「(2) 同窓会の組織のあり方」「(3) 同窓会の機関等」「(4) 同窓会の活動基盤の強化」「(5) 同窓会の財務基盤の強化」「(6) 具体的な事業・活動の改善策等」の6箇節から成っています。先ず第1節で今回の答申（第1次案）の骨格となる改革・改善の考え方として以下の4点を明確にしています。

- ① 「会員相互の親睦及び母校の発展」を重点にした同窓会活動を推進すべきである。
- ② 現職会員の同窓会活動への参画を高め、退職会員及び首都圏会員の受益に偏した事業・活動の是正を図るべきである。
- ③ 同窓会の組織を充実し、その機関等の運営要領を改善し、また財務基盤の強化や活動拠点の整備等、同窓会の活動基盤をさらに強化すべきである。
- ④ 時代・環境の変化に対応し将来を見通した同窓会の各種事業・活動を推進又は着手すべきである。

第2節以下では、各機能別等に区分してそれぞれ改革・改善案を提示しており、その主な具体的な提言例（要旨）は次のとおりです。

(目的と事業・活動の重点)

- 同窓会の活動は、当面「会員相互の親睦」及び「母校の発展に寄与」する活動を重点に実効の上がる方法で実施し、「社会的活動に寄与」する活動は、経費面、人材面及び要領面（やり方）について「現実」をしっかりと踏まえた上で、本来活動とも言える「2本柱」を阻害しない範囲で実施すべきである。

(組織)

- 同窓会の組織は、期生会と地域支部等を「主軸となる骨幹組織」として明確に位置づけて組織を充実・整備すべきである。

(機関・人事等)

- 「会員相互の親睦及び意思疎通に資する」ために実施している「現行の総会」を廃止し、議決機関としての総会にすべきである。「新しい総会」は、会則の大改正や同窓会の根幹に関わる大事業の実施など重要事項の決定又はその周知徹底のために代議員会が必要と認めた場合や、防大創立10周年毎又は25周年など特別な年度にあたり代議員会が必要と認めた場合に開催し、そのような節目の年には、代議員会に代わって必要事項を決定し、併せて母校の発展を祝賀する等の位置付けにすべきである。
- 代議員会の実施要領を改善するとともに、新たに「副代議員（仮称）」を指名し、「正代議員」が代議員会に出席できない場合に「副代議員」が出席できるようとする。また研究科各期に1名の代議員を割り当てるべきである。
- 同窓会の役員等に現職会員を多く選出・選任し、例えば、会長を退職会員のできるだけ若い期から選出し、新たに、副会長に現職会員の階級上位者の「統幕議長職」あるいは「防大幹事職」にある者から選任する等を検討すべきである。また事務局の各部には、部長職を含め現職会員（首都圏勤務者）を選任

し、特に事業部は現職会員が中心になって「現職会員のための事業」を実施すべきである。

(活動基盤)

- 同窓会は現在「任意団体」であるが、時代の趨勢を踏まえて、例えば「中間法人」設立等の研究・検討を実施すべきである。
- 小原台事務局を整備し、母校との意思疎通をさらに図るべきである。
- 同窓会活動・事業の「地域的な偏重・格差」を是正するために、できるだけ全国各地域で色々の活動を実施すべきであり、そのために活動主体となる地域組織の整備を急ぐべきである。特に関東地方又は首都圏等のように地域支部（地区支部）がない地域においては、地域支部等の設立あるいは同好会等の結成など何らかの形で会員の組織化が必要である。

(財務基盤)

- 会費は現行通り「3尉初号俸の1/4」とし、会費徴収率の維持・向上に引き続き努力すべきである。また会費以外の財源確保について「寄付受け」等を検討すべきである。
- 「費用対効果」の考え方をより厳格に適用して事業を精選する等、財務状況の改善・向上を図る必要がある。

(具体的な事業・活動等)

- 「懇親会」は、会員相互の親睦を深める絶好の手段であり、大いに奨励すべきであるが、従来どおり「会

費制」を前提で実施すべきである。

- スポーツ等の交流会は、地域支部等や期生会の事業・活動とした方が懇親の実が上がる所以、同窓会本部では実施しないこととし、また愛好者の「同好会」活動として定着させるのが適切である。同好会は、同好会会員の「自己負担」による実施が原則であり、現職会員も、退職会員も、また女性会員も、愛好者が自由に参加種目等を決定して、軽易に参加すればよい。
- 退職会員のホームカミングデイ（HCD）と同じように、現職会員が在職20周年又は25周年に当たり防大に集まり、防大生との交流を図り、また同窓生自身も自衛官としての決意を新たにするために「現職会員HCD」の事業を検討すべきである。
- 会員が死亡した場合、現行どおり「弔電及び生花」を供するが、「運命共同体の一員」と言われながらも、殆どの会員が叙勲の対象からも漏れ、中央勤務の機会が少ないと鑑みて、弔電は同窓会員代表として、「社会的地位」を有する会員の代表とも言える現職会員の「各幕僚長名等」で打電することの可否について検討すべきである。本事業は、財政的に相当大きな負担になるが、会員各人に等しく還元される唯一の事業であり、最も優先すべき事業と位置づけ、財源は基本的に会費収入から充当し、不足する場合には、機関誌の発行廃止や各種助成金の削減など他の事業の廃止・縮小等で対応すべきであり、また使途目的を明確にして、「寄付」受けやこうした相互扶助の「基金」を集めることを早期に検討・具体化すべきである。

あり方検討委員会の委員等名簿

(敬称略・順不同)

職務	氏名	期別等	備考
委員長	村田雄二郎	10期・陸	
委員	洗 堯	11期・陸	
委員	藤本 四郎	12期・陸	事務局部員兼務
委員	山根 峰治	14期・陸	
委員	経田 勇	12期・海	
委員	木村 誠一	14期・海	
委員	佐々木 勇	12期・空	
委員	松井 健	15期・空	
委員(現職)	宮寄 泰樹	22期・陸	陸幕総務課長
委員(現職)	大谷 祥治	21期・海	前海幕総務課長※(～16.8)
委員(現職)	小野原正信	22期・海	海幕総務課長※(16.8～)
委員(現職)	宮脇 俊幸	20期・空	前空幕総務課長※(～16.8)
委員(現職)	吉岡 秀之	22期・空	空幕総務課長※(16.8～)
担当副会長	藤繩 祐爾	8期・陸	

注) ※印()内は、委員委嘱・交代時期を示す。

- 同窓会は、毎年防大生の校友会活動や開校祭の実行に対して物心両面の援助を実施してきたが、近年防大を卒業した新会員の中には、同窓会が防大生にどういった支援をしているか承知しない者が多いためが判明し、現執行部は、平成16年度から防大生に「目に見える形」での支援を実施することとし、校友会活動や開校祭支援以外に、新たにカッター（短艇）競技会、断絆競技会、棒倒し競技会等にも支援し、「同窓会の支援」を継続してアピールすることになった。
- 個人情報保護法が施行され、この結果異動が頻繁にある現職会員の名簿データの入手・更新が著しく困難になり、各期生会の「全面的な協力」なくして名簿データの把握が事実上不可能になった。このため、早急に各期生会の陸・海・空要員別に「名簿管理員（仮称）」を新たに指名して、名簿データの入手・更新を担任してもらうことが必要である。各期陸・海・空の「名簿管理員」は、最小限年1回以上、夏の異動（8月）を基準に、現職会員の定期異動後すみやかに名簿データ（変更分）を掌握し、変化事項を同窓会本部に通報するシステムを確立すべきである。
- 同窓会ホームページを充実し、各期生会及び各地域（地区）支部等との連絡をはかり、「防衛コーナー」の設置を含め各種コーナーを設け、また保全に留意した名簿管理システム等ができるだけ早期に構築すべきである。
- 同窓会ホームページの充実を前提として、機関誌（紙）の発行を段階的に削減又は廃止すべきである。
- 会員名簿の刊行は、これまで5年に1回実施してきたが、例えば防大創立10周年毎の記念行事の一環として、予約・有料制で刊行を継続し、この際広告を募って経費節減を図るべきである。
- 女性会員のための事業を検討すべきである。
- 外国人留学生等との交流を逐次充実すべきである。
- 会員が国政・地方政治の公職選挙に立候補する場合には、同窓会ホームページで紹介すべきである。
- 当面MCI事業のうち会員に対するサービスを行う「自主活動」を積極的に実行すべきである。
- 会員が主体で活動する団体やボランティア活動に対する「寄付」は実施せず、同窓会ホームページ等で紹介すべきである。

(5) 「4 防大同窓会の改革・改善に沿った移行要領等」の構成と内容

第4章は、「(1) 当面（現在～次年度）速やかに実施すべき事項」「(2) 約5年程度で改革・改善に着手すべき事項」「(3) 将来状況により検討・着手すべき事項」の3箇節から成り、第3章で提言した内容の時期的な実行要領等について言及しています。

- 今年度（16年度）から実行すべき事項として次の事項を提案しています。
 - ・会費納入率の改善
 - ・名簿管理員（仮称）の指名
 - ・同窓会ホームページの充実
 - ・事業の精選・効率化等
- 次年度（17年度）に実施すべき事項として、以下の事項を提言しています。
 - ・会則の改正
 - ・状況により『新しい総会』の開催
 - ・「地区支部等」の立ち上げ奨励及び「現職会員地区支部」の活動の活性化
 - ・「中間法人」設立の検討・研究
 - ・現職会員の役員又は事務局要員への選任
 - ・各期生会・地域支部等のホームページ等の実態調査
- 約5年程度で改革・改善に着手すべき事項として、次の項目を列挙しています。
 - ・同窓会ホームページの拡充と名簿管理システムの完成
 - ・機関誌（紙）発行の削減・廃止及び会員名簿刊行の予約・有料化
 - ・スポーツ交流会等の地域支部等への移管
 - ・講演会の各地域持ち回り実施
 - ・「法人格」取得と寄付受け制度の検討
 - ・会費以外の財源確保及び「積立金」の性格の明確化
- 将来状況により検討・着手すべき事項として、以下の3項目を挙げています。
 - ・政治的活動
 - ・受託事業の実施
 - ・同窓会の活動拠点



国の護り

期生会だより

「5期生」

会長 福地 建夫

今年の期生会の最大のイベントはホームカミングデーでしたが学校、同窓会及び多くの期生の協力により成功裏に実施できました。

全国各地から家族を含め420名が小原台に参集し、卒業式、観閲行進を見学して学生時代を懐古し、懇親会では更に期生会の絆を強めることができました。

その後の期生会の事業としては名簿及びメール網の整備を推進するほか例年と同じように同窓会主催のゴルフ、テニス、囲碁大会に選手を派遣しました。残る事業としてはホームページの立ち上げで浅野理事が中心となって準備を進めております。

現役員の任務も残り少なくなりましたが、17年6月に予定しております総会に向けて準備に入りました。今後解決しなければならない問題もありますのでこれまで以上のご協力をお願いします。

7期生会

北斗会理事長 出來 義彦

1 役員交代

平成16年7月9日(金)グランドヒル市ヶ谷で行われた北斗会総会において、役員の交代が承認されました。

これまで北斗会を見事に運営して来た大越兼行会長以下の旧役員を継いで、落合 畠新会長はじめ次の者が新役員(任期3年)に就任しましたので、よろしくお願ひします。

本部 会 長	落合 畠(海)
副会長	中村 晓(陸)、田中伸昌(空)
理事長	出來義彦(海)
理 事	大塚忠宏(陸)、出水克明(海)
	北原 彰(空)、樋口隆士(空)

各支部長等

北海道支部長	小澤 肇(陸)
東北支部長	阿部多功(陸)
東部支部長	江藤兵部(空)
同理事長	伊藤文夫(空)
近畿・中国・四国支部長	倉掛正徳(空)
九州支部長	伊藤宏美(陸)

2 ホームカミングデー

新役員の大事な仕事の一つは、平成17年春に予定されている「7期生ホームカミングデー」(卒業生による母校訪問)を企画・実施することです。すでに同窓会本部と連絡を取り、先輩期の教えを請いながら準備に取りかかりつつありますので、やり方等について、ご意見やご希望のある方は、各役員に申し出て下さい。

13期生会だより

理事(空) 中島 正雄

先日、13期生役員会のスナップ写真のメールを参加役員から受け取りました。

自分の顔は毎日、洗面時に見ているためか、気にはしていませんでしたが、たまにしか会わない同期生の写真を見てみると何と老けていることか。まるでオジイさんだ。

気分は40歳代から変化はないものの、年齢は確実に増え、13期生は平均的に58歳となりました。これを人生半ばと見るか、終焉近くと見るか、気分齢と実齢の差は退官者の価値観になって現れている感がします。

小原台での13期生としての出会いが、途中、陸・海・空自衛隊にてさまざまな思い出を残し、今や、民間の人として再び自由闊達な出会いとなっています。そこには、階級意識はなく、同期生という共通意識だけがあり、初対面であろうが、なかろうが和やかに話がはずみます。不思議です。

他期の詳細を承知しておりませんので明言できませんが、13期生会は昭和55年3月に会則が施行され、その組織は特徴があるものと考えています。それは、陸・海・空合同13期生を本部とし、これを13期生会と称していることです。その会長は学生隊学生長経験者が陸、海及び空の順に3年任期で交代制となっています。また、陸・海・空の要員を各支部とし、その支部長を学生隊学生長が終身、務めることになっております。つまり、支部長は6年毎に3年間の会長を兼ねることになります。

確かに、この組織は同期の間で2佐から将の階級差のある現職自衛官が多い時代には沈滞ぎみでした。さらに各支部は一般大卒の同期生を含めた活動が中心となりました。

13期生会としての大掛かりな総会は2003年2月に約15年振りに開催され、ご婦人方を含めて約180名の大懇親会となりました。これは新しい時代、つまり長い自衛官職を終え、新鮮で、しかも長い挑戦への始まりの意味で、第1回目大懇親会と言えます。2004年2月にはほぼ97%

の同期生が退官し、第2回の大懇親会を盛大に行いました。

今後は毎年2月に開催することとし、まさにこの時期を予期していたかのような13期生会会則がようやく躍動し始めました。その目的には「生涯にわたる融和、団結及び相互扶助」を図ることが明記されています。

2005年は2月19日(土)15:30~18:00、第一ホテル東京シーフォート1階レストラン(全フロア貸切)にて実施します。同伴者は10,000円、単身者は8,000円です。この時期には、陸・海・空同期生の全てが退官又は退官近くになるものと予測されますので、今までにない新たな雰囲気を楽しみにしております。同期生の諸君、是非、ご参加ください。

同期生の70歳代、80歳代、90歳代の時代を想像することは不可能ですが、幸い13期生の陸・海・空各要員に終身世話人3~5名が存在するため、これらを核とすれば今後趣味別会合等、の変化のある活動も楽しみです。状況によっては60歳代、同期生経営者懇談会もありうるものと期待しております。

13期生は団塊世代の先頭集団です。

世に言う2007年問題とは、まさに我々、同期生が60歳に入る時期、民間企業での大量退職者の出る時期です。国内消費は日本経済の根幹です。団塊世代の先駆者らしく、新しい消費文化に挑戦しましょう。全国に散在する同期生諸君、期生会執行部は活気があります。毎年2月に再会し、お互いの元気を共有しましょう。

防大第19期生卒業30周年記念懇親会の開催について

防大第19期生の皆様におかれましては、ご健闘にて充実した毎日を過ごされていることと推察されます。

さて、我々防大第19期生も卒業30周年を迎えることとなり、既に定年を迎えて第二の人生で頑張っている方もありますが、ほとんどの方が定年を間近にしているこの時期、最後の同期生会を開催したいと思います。

どうかご夫人同伴の上、懐かしい小原台の話を咲かそうではありませんか。

時 期 平成17年4月28日(木)18:00~21:00
場 所 グランドヒル市ヶ谷
問合先 陸:杉村 宏(8-6-47500)
海:後藤 博之(8-6-54141)
空:山之内 裕(8-6-64000)

なお、本件を退職者にも連絡いただければ幸です。

担当 陸:警務隊本部 樺枝 宗男(8-6-47600)

29期生会

事務局長 糸井(海)

29期生は、本年3月で防大卒業後、20年の節目を迎えます。そこで、卒業20周年を祝すとともに、同期生相互の融和団結を図り、29期生会の益々の発展を期するため、記念行事を企画したいと考えております。期生会長の馬場君(陸)がドイツ防衛駐在官、副会長の城殿君(空)が米国防大学在学中と、両君ともに不在であるため、陸、海、空の部会長である柴田君、佐藤君、村上君と事務局長の私とで、現在アイデアを出し合っているところです。今回は、この紙面をお借りして、企画の素案を報告させて頂き、同期生諸君への協力を呼びかけたいと思います。

現時点での素案としては、副会長の城殿君が帰国する6月から7月頃を目途に、期生会の事業・会計報告、規則・役員の改正等を行う総会及び記念祝賀会(グランドヒル市ヶ谷)の開催に加え、靖国神社への記念参拝と植樹を実施したいと考えております。今後は、末尾に記します現期生会役員と東京地区勤務者を中心に実行委員会を組織し、記念行事の諸準備を進めたいと考えますので、該当する諸君には、積極的なご支援・ご協力をお願いします。

29期生の諸君からの本件に関する建設的なご意見、ご要望を、また、諸先輩方からのご経験を踏まえたアドバイスをお待ちしております。

(連絡先: jsc-gakusei4@jso.mail.jda.go.jp)

【29期生会の現役員】(敬称略)

会長:馬場(陸)、副会長:城殿(空)・日高(民)、陸部会長:柴田、海部会長:佐藤、空部会長:村上、事務局長:糸井(海)、総務理事:高田(陸)、総務:中村(陸)・中尾(海)・大岩(空)、庶務理事:長島(空)、会計理事:山内(陸)



若人の城

同窓生アラカルト

防大短艇委員会に思いをよせて

黒部会会长 7期(海) 向井 正興

我等の母校防衛大学校も平成14年11月創立50周年記念行事が成功裏に修了したことを心から喜びたいと思う。21世紀にはいり小原台も新しい段階を迎えようとしております。自衛隊の活動もインド洋上、東チモール、ゴラン高原さらにイラク派遣など世界各地で活躍しているところです。このような情勢の中で、わが愛する短艇委員会も絶余曲折をしながらも名称変更もなく昔の委員会のまま波乱万丈の輝かしい伝統を残していると思う。この伝統を防大生諸君に受け継いで貰いたいし、また、われらOB組は、その活躍状況を紹介して交流のネタとしようと、平成11年にOB会「黒部会」を発足、私向井が会長に推薦され今に至っている。(黒部とは、走水沖にある立標で、カッター漕走訓練時の目標だった。今も黒い立標であるが、船がぶつかったらしく傾いているのが気に掛かる、早く直立になるよう願っている。)

そこで、「全日本カッターレース」が毎年5月に参加校持ち回りで開催されている。レース本番をひかえ、選手諸君の激励会を割烹東京湾(旧富永)で行っている。激励会では、司令官、総監経験者をはじめ、若手のOB連中の励ましのエールで満ちています。

激励の一こまをここに披露すると、

「カッターには魔物が住む」という、第1の魔物は「あんなきついばかりの奴隸船になぜのるの?」その奴隸船にも何ともいえない魅力がある。「だからやめられない」第2は「競技に魔物がつきまとう」という、「勝負は時の運」の諺があるが、運ばかりではなさそうだ。それがわかれば苦労しないよ、と言いたい。全日本カッターレースの歴史の中で6連覇は見事の一言に尽きる。その連覇の後の惨めなこと、「どうしたんだ」との間に「こうなんだ」と答えられるものはない。それが、「勝ち組」「負け組」を生み、言葉のゲームの始まりとなっている。この言葉のゲームは懇親会の花形である。やや「負け組」のクラスの参加者が少ないのが気がかりだ。おおいに論戦をして魔物が何であるかをひねり出して貰いたい。

やっぱり勝負は勝たねばだめだ、勝って勝って勝ち抜け!

こんな檄に、防大クルー連中の決意表明有り。すがすがしい限りである。

今のところ15、16年度と連覇している。

ひとつ気がかりのことがある、平成11年のことと記憶しているが、学校側から女子クルーの競技相手をOBにして貰えないかとの話があり、早速メンバー集めをしたところ2クルーできた。防大女子2クルーとOB2クルー

の1000メートル直線1本勝負とあいなった。

結果は、女子クルーの「きいろい」声、悲鳴の声とも聞こえたが、容赦なくOBチームの勝ち。次の年はやや肥満年配を入れて調整をしたクルーとしたが接戦となり、女子クルーを励ますどころか、がっかりさせたかと気になった。

その後もうこの話はなかったこととしたいむね学校側から通知があり、やむなく引き下がることとした。

さらに衝撃的なことになった。それは防大創立50周年行事の一部であった全日本カッターレースが走水沖で行われたので応援に行った。男子チームは、優勝の栄誉に輝いたが、女子チームは参加6チーム中に防大チーム名がなかった。

聞けば「なかなかこぎ手」が集まらないとのこと、だけ生徒数の少ない「九州看護福祉大」では「この厳しさが、看護の原点」だ、とにかく参加することが第一、と指導者の方の声を聞いた。

防大も見習う点はないのか?このようなことで精強な自衛官になれるのか?憎まれ口のように聞こえるかもしれないが、一度途切れたものを復活させるのは至難の事と思うが、防大のことだから、ほっといてくれといわれればそれまでだけれども、はがゆくてたまらないし、なんだかさみしい気がする、読者の皆さんはいかに。

今年も8月1日、短艇委員会恒例の夏合宿遠漕があり、走水ボンドから三浦海岸まで4隻で10:00出港、私、向井とクラスの牧山、別府がそれぞれ同乗させて貰った。

はじめは、クルーも元気がよかつたが、漕げども漕げども向いの南風と逆潮のため悪戦苦闘。このままでは、目的地に日没時までには着かないと判断され15:30久里浜沖で反転ボンドに引き返す。来年は何としても完漕できるように応援したいし、防大ともつながりが切れないよう生きていきたいと思う。

マレーシアで日本語教師ボランティアの記

8期(空) 原野 英紀

今年の7月30日から8月30日の間、マレーシアのキャメロンハイランドという常春のリゾート地で日本語教師を体験してきましたので、この概況について記したいと思います。

○ マレーシア

マレーシアはマレー半島南部とボルネオ島北部を合わせ国土総面積33平方km²(日本の約90%弱)、人口約2,300万人、多民族国家。人口の60%がマレー系、30%

が中国系、残りがインド系で構成。国教はイスラム教、公用語はマレー語、その他中国語、タミール語が使われています。また、英語も幅広く使用されており、旅行者は簡単な英語で用が足ります。

○ キャメロンハイランド

マレーシアの首都クアラルンプールから北方約200kmの中北部山岳地帯に位置し、標高1,500mの高原です。1855年イギリスの測量技師キャメロンにより発見され、1920年頃から高原リゾート地として開拓整備され発展してきたそうです。その周辺は深いジャングルに囲まれた自然が広がり、丘の上には英國風の瀟洒な山荘やホテルが散見される素晴らしい景観を有しています。

この地の特徴としては、年間を通して最高気温24度、最低気温14度の避暑避寒地であると同時に紅茶や花(ブーゲンビリア等)の生産、珍しい蝶・昆虫の生息地としても有名です。故松本清張はここをマレーシアの軽井沢と絶賛し、この地を舞台にタイのシルク王ジム・トンプソンの謎の失踪事件を主題に「熱い絹」を書いています。

○ 現地における日本語教室

この教室はキャメロンハイランドクラブというNPO団体(本部は大阪)が主宰し、マレーシア政府観光局と現地町役場の協力を得て2000年8月に開講しました。毎年1月から3月と7月から9月にそれぞれ約3ヶ月間開講しており、この間各クラスごと週3回各2時間の授業を行い、日常会話が話せる水準まで指導しています。

今回、私は初めてこの教室の教師として参加しました。現在クラスは生徒の技量や年齢等に応じて10クラス約100名(中学生から社会人)の生徒がいます(このほか個人指導2名)が、最近日本語熱が高まり受講希望者が増加しつつあります。

10クラスのうち私が担当したのは中学生初級クラス27名(このクラスは人数が多くるので教師2名が担当)と個人指導の2名でした。個人指導の1名は50歳台の医者(男性)、もう1名は40歳台のレストラン経営者(女性)で週2回づつ学習ましたが、生徒100名のうちこの2名が群を抜いて日本語が上手だったようです。



○ 現地におけるレジャー等

この夏(7月から9月の間)、日本人の1ヶ月以上の長期滞在者は約150人(日本語教師25名を含む)くらいと推測され、この大半が定年退職した夫婦連れで、当地において各種レジャー等を楽しんでいます。代表的なものはまずゴルフ。タクシーで10分位の所にある公園のゴルフ場でプレイできます。費用は平日でクラブを借りキャディを付けても約3,000円です。私も2回ほどラウンドしましたが、コースが非常にタフでスコアはいつもより10くらいオーバーしました。

次にトレッキングがあります。熟練者から初心者向までのトレッキングコースが14コースあり、初心者コース以外はガイドの案内が必要です。またジャングルウォークといって40~50年前まで虎や象が生息していたジャングルを専門のガイド付きで約3時間歩くコースもあります。このほか各種観光ツアーや各種同好会(テニス、囲碁等)、各種教室(料理、刺繍、氣功等)があり、自分の好みに応じて参加することができます。

○ 生活事情

キャメロンハイランドには長期滞在者に必要なものは殆ど揃っています。住居関係では沢山のホテル、コンドミニアム、アパート(短期入居可)があり、費用は中級クラスで約5万円/月です。次に食事関係では中華料理、インド料理、マレー料理を食べさせてくれるレストラン(一部日本料理もある)が30~40軒あり、費用は私の場合約2万円/月でした。

とにかく物価が安い(日本の1/3~1/5くらい、但し酒類は日本と同じかそれ以上)。例えば洗濯代は4kgまで6RM(リンギット)約192円。1RMは約32円です。クアラルンプールからキャメロンハイランド(タナラタという町)まで約200kmをタクシーで(約4時間)3,200円、バスだと412円。

キャメロンハイランドについては既にテレビや本で紹介されているように“夫婦2人年金15万円で暮らせる”というのは本当だと感じました。

因みに今回私の収支決算の概略は次のとおりでした。

旅費(航空運賃)	81,000円
宿泊費	40,000円
食費	24,000円
レジャー費	16,000円
その他(タクシー代、土産代、登山靴代等)	20,000円
計	181,000円

(ボランティアだから経費は教材代を除き全て自前でした)

○ 終わりに

本年3月に再就職先を退職し、4月から週休7日モードに入りました。現役時代から“仕事を辞めた後、如何に過ごすか”を考えていましたが、本を読んだり、



趣味を生かすだけでは何か物足りない。そこで自分にできるボランティアをやろうということで、5年前から千葉市国際交流協会で外国人に日本語を教えてきました。現在週2回、米国女性と韓国女性に日本語を教えています。今回たまたま日本語教師仲間からキャメロンで日本語教師を募集しているという話を聞いて応募し、行ってきた次第です。

わずか1ヶ月の体験でしたが、気候は良いし、いろいろな国の料理も味わったし、ジャングルも歩いたし、何よりも生徒さん達と楽しく学習できましたし、本当に有意義な体験でした。しかし来年1月からまた参加するかという事については今の所わかりません。女房がまだフルタイムで働いており、私の専業主夫業を当てにしているところがあるので、多分家庭内ビザは下りないでしょう。

最後に、海外における日本語教師のニーズは、東南アジア諸国、中国、韓国、豪州、ニュージーランド等で高まりつつあると言われています。いずれ近い将来、女房と一緒にマレーシアをはじめ何処か条件の合う国へ遊びに行きたいと考えています。

PKOに連絡し、NGOで東チモールの 国土復興支援

特定非営利法人日本処理・復興支援センター
理事（13期）庄司 智

カンボジアのPKOに自衛隊が派遣されてから10年が過ぎた。

国際協力の名のもと、各国と力を合わせカンボジアの復興支援に活躍してきた陸上自衛隊は、若葉マークを付けての参加ではあったが、その成果はほぼ完璧で、素晴らしい、絶賛の価値があった。

しかし、自衛隊が撤収した後は、装備品の建設機械は日本に持ち帰られ、カンボジアの復興は、復興支援前に逆行し、ショベルとツルハシでの建設工事になってしまった。又カンボジア復興のためにと残してきたプレハブ

（組立式建築物）も、自衛隊が撤退すると、短期間に内にめぼしい物は持ち去られ、壁、床等燃える物は、現地住民の生活の為の燃料となり、残ったものはゴミの山になってしまった。

延べ2,400人の自衛隊員が家族と6ヶ月も離れ、暑さと戦い汗を流し、整備した道路は、再び荒廃し、元の姿に戻ってしまった。

平成14年東チモールに派遣された自衛隊は、カンボジアの教訓を生かし、建設機械は民生品を主に装備し、撤収の際には東チモール国土復興の為に建設機械を東チモール政府に譲渡するとともに、4次に亘る派遣施設群では、本来任務の復興支援の他に建設機械の操縦・整備と、工事の管理について現地人を教育し、技術者の育成を図った。

東チモールは長い間インドネシアの統治下にあり、統治下の教育は支配階級のインドネシア人が主体で現地の東チモール人は、ほとんど教育を受けることができず、識字率は50%以下である。

現地派遣施設群は、建設機械の操縦・整備や工事の管理の技術者がなかなか育たず撤収後を心配していた。

この状況を知った施設科OB有志は、この窮状を救うべく同士を集め自衛隊撤収後自衛隊の仕事を引継ぎ、東チモールの復興を支援することにした。

平成15年5月12日平崎憲昭氏（防大5期）を理事長とする「日本地雷処理・復興支援センター」（略称JDRAC）を設立、9月18日東京都は、NPO法人設立を認証、10月9日法人格を取得した。

JDRACは自衛隊撤収後、引き続き建設機械の操縦及び整備訓練、建設機械による復興工事、組立建物（プレハブ）の建築を追求していた。

PKO後のアフターケアについて計画を持っていなかった内閣府（PKO本部）及び外務省もJDRACの熱意に動かされ、JICA（国際協力機構）に建設機械の操縦及び整備訓練と建設機械による復興工事を担任させることとし、JDRACからは渡邊栄樹氏（防大13期）が統括責任者として派遣されている。

JDRACは15年11月と16年2月に東チモールに調査団を派遣、16年6月1日に東チモール国ディリーに現地事務所を開設、6月11日東チモール国と相互支援の覚え書きを締結、7月19日東チモール組立式建物技術訓練センター



を開設、16年11月現在、3人の元自衛官を教官として19名の訓練生を教育中で、訓練練度は順調に上達し、かなり複雑な組立式建築物の解体、組立ができるようになった。

日本地雷処理・復興支援センター（JDRAC）は設立し1年が過ぎ、東チモールの現地では、順調に組立式建物技術訓練センターを運営している。自衛隊が残していく組立式建築物を解体、東チモール政府の要求に応じた建物を建築し、非常に感謝されている。

国連による国際復興支援は被支援国の初期復興と自立の促進が主体であり、その成果の拡大は被支援国的能力上、十分でないのが現実である。

かかる状況における国際貢献派遣部隊の撤収（撤退）の見極めは極めて難しく、多くの問題を残している。

東チモールにおいても、これを受け継ぐ組織も人も未完成であり、国連の支援期間の延長を要望していたが、国連支援団は大幅に縮小され主要列国は、当初の計画通り撤収した。

我々、JDRACは東チモール政府の要請により、これらの問題解決の一助にでもなればと日本で初めてのPKOに連携してのNGOとして東チモールにおいてささやかな国

土復興支援をしております。

16年9月外務省の日本NGO支援無償資金協力から16年9月以降一部資金協力を得る事ができましたが、かなりの資金が不足している。

JDRACは自衛隊OBが集まり、退職金や年金の一部を出し合い、定年後の小遣いの一部を出し合って組織を運営している。

防大OBの中で、我々の意気込みに賛同して下さる方はJDRAC事務所にご連絡下さい。体力と暇のある方は労力を、お金の出せる方は資金を出して是非ご協力下さい。

JDRAC事務所 ☎ 102-0082

東京都千代田区一番町6-3

ライオンズマンション310号室

TEL 03-3239-6085

FAX 03-3288-8288

郵便振込口座

特定非営利法人日本地雷処理・復興支援センター

口座番号 00120-3-425862

支部だより

栃木地区支部

事務局長 三代 武徳



栃木県防大同窓会は、全国各地で防大同窓会の地域支部、地区支部が次々と発足する中、母校防衛大学校が創立五十周年を迎える記念すべき年に、栃木県防大同窓会を発足させようと栃木県在住の同窓生有志により会

合を開き、君嶋 信氏（3期）を発起人代表とし平成14年12月栃木県防大同窓会を開催し、会則、今後の活動方針等を審議し、役員の選出を行い、初代会長に鯉沼義則氏（1期）が選出され参加会員全員の賛同を得て発足し、早や2年が経過しました。

栃木県は防大同窓会の組織構成では、東部地域支部の管轄地域になっておりますが、未だ東部地域支部が設立されていないため、現在も同窓会本部の直轄支部に属しております。

栃木県防大同窓会は目的第一に会員の親睦を図ることを挙げており、毎年1回総会、懇親会を開催し、年度の事業等を審議し、新たに県内在住となった同窓生や勤務先の変更等を更新した同窓会名簿を配布して会員相互の親睦を深めております。

同窓会活動の一つを紹介しますと、2ヶ月に1回を基準に同窓会ゴルフコンペを実施し、会員及び家族が参加して平素の運動不足を補い、会長杯争奪に熱氣があふれ、珍プレーありナイスショットありで和気藹々の雰囲気の中でプレーを楽しみ、表彰式では童心に返ったような笑



▲同窓会ゴルフコンペ

顔で受賞する会員、また次回の入賞を目指し反省の糸を述べる会員等、笑いの耐えない楽しい行事として定着しております。

現在同窓会の退職会員は62名で年々増加しておりますが、肩の凝らない楽しい同窓会活動と現職会員との親睦を深め心の支えとなるような活動を実施し本同窓会がさらに充実発展するよう努力したいと考えております。

北陸支部

事務局長 西川 清

北陸防大同窓会は、平成14年8月の発足以来、3年を迎えたが、退職会員93名、現職会員68名の合計161名の小規模の地域支部です。

平成16年に実施いたしました事項を紹介させていただきます。

竹切りボランティアin金沢2004

(防大同窓会のホームページでも紹介)

平成16年5月8日(土)に金沢市近郊にて実施いたしました。

行事としての名称は、「竹切りボランティアin金沢2004」でした。

北陸防大同窓会からの参加者は、久保会長(陸3期)以下、OB10名(石川県8名、福井県2名)、現役9名(小松基地6名、金沢駐屯地2名、石川地連1名)、家族2名の21名でした。

里山の住人の多くが高齢者であり、かつ、米作の休耕も相まって、竹林の孟宗竹が水田をも竹林に変えていました。

また、金沢は積雪地でもあり、雪の重みで竹が倒れ歩けないような状態を呈していました。

人の入らない里山は、熊やカモシカの生活圏になってしまい、人間の住居と野生動物の生活圏が隣接するという環境が生じています。



▲竹取ボランティア参加の北陸同窓生

今年の参加者は、我々のほか、一般の参加者や精薄施設の人たちも参加していました。

参加者全員を10個班に分け、我々も2名ずつ班に配置されました。

班長には、森林組合の人たちが指名されていましたが、人を指揮して作業をした経験がないようでした。

そこで、我々北陸防大同窓会には何をしてくださいと指示があったわけではありませんが、作業を始めてから、皆、安全管理に気を遣わないといけないと感じました。

昼食時には、日本財団の曾野綾子会長を囲んで食事をしましたが、和氣あいあいといろいろなお話をすることが出来ました。

昼食には、地元のタケノコ料理や冷や奴などを持参したおにぎりと一緒にいただきました。空気の清浄な山間地で身体を動かした後の食事は、格別でした。

午後は、早めに作業を終え、3時から地元石川の「手取亢龍太鼓保存会」の演奏や太鼓指導がありました。(日本太鼓連盟がこの行事に協力することで計画されたようです。)

夕方からは、懇親会ということで酒宴になりました。ここでも曾野綾子会長を囲んで大いに盛り上りました。

同窓会本部の古賀部長には、日本財団との調整から現地指導まで面倒を見ていただきありがとうございました。

平成17年も竹切りボランティアがあると思いますので、全国から防大同窓会会員の参加(視察)をお待ちしています。

第3回総会

総会は、平成16年8月28日(土)、JR金沢駅前金沢都ホテルで、来賓5名、退職会員21名、現職会員27名の合計53名の参加を得て開催いたしました。

国歌斉唱のあと、事業報告、会計報告及び新計画の報告が議長井上博氏(陸3期)のもと行われました。

続く講演会は、第6航空団司令兼小松基地司令の齋藤治和氏(空22期)の講話を拝聴いたしました。

懇親会は、会長挨拶、来賓祝辞をいただき、懇談中には各部隊長の挨拶もいただきました。防大学生歌に始まり、逍遙歌で終わるパターンですが、有意義な会となりました。



▲懇親会・逍遙歌斉唱

本部へのお願い

北陸防大同窓会では、社会への貢献（地域への貢献）の機運が高まっています。同窓会の名前も堂々と表に出そうと考えています。つきましては、校旗を入手し、竹切りボランティアなどで掲示したいと考えていますが、いかがなものでしょうか。以前、東海支部の総会に参加した時、本部から借用した校旗を拝見しましたが、大きすぎる感がありましたので、その1/2~1/3の大きさの旗がいいようです。「防大同窓会」の文字が入っているとなお結構だと思います。本部でのご検討をお願いいたします。

連絡先 E-MAIL nishikawa@kyoto-p.co.jp
FAX 020-4624-5955

東海支部

事務局次長 佐藤裕紀夫

東海支部は、愛知、三重、岐阜の三県を範囲として平成12年12月に発足し、満4年を迎えました。現職会員約360名、退職会員約310名計670名の中規模の地域支部です。

支部は、昨年の総会において、江戸会長（陸1期）を中心とした執行部体制から、森新会長（空5期）を中心とした新執行部体制への交代を承認され、新たな陣容で支部活動を開始したところです。

森会長を中心として役員一同、一致団結してこれまで諸先輩が築いてこられた支部の体制を維持発展させ、同窓会の目的の達成に努力していくこうと決意しているところです。

ここで過去1年間を振り返り、支部における主なイベントにつきまして簡単に紹介したいと思います。

- ・15年12月 第4回総会
- ・16年2月 中部小原台クラブ総会
- ・16年7月 防大生の部隊実習の激励
- ・16年12月 第5回総会

○ 第4回総会

昨年の総会は、部隊の行事等の関係もあり、歳も押し迫った平成15年12月21日、JR名古屋駅近くのホテルキャッスルプラザで、来賓として北陸支部会長の久保正佳氏（陸上3期）、関西支部会長の中一皓氏（航空7期）を迎えて、現職会員38名、退職会員69名、ご家族及び部外からの参加者16名の参加を得て開催されました。

総会は、同窓会本部からお借りした国旗及び防大校旗を会場正面に掲げ、江戸会長から、イラク問題等、昨今の国際情勢から、国の防衛政策もその場対応に留まらず、抜本的な取り組みを迫られる状況の中、防大同窓会の存在・意義が更に重みを増して来ることが予期されるので、会員皆さんの理解と協力を頂きたいとの趣旨で挨拶があり、続いて、事業報告・事業計画、決算報告と予算計画、会員現況等の報告が行なわれました。

最後に、新役員が満場一致で承認され、森会長以下の新役員が就任しました。新旧の役員が壇上に上がり、これまでのご活躍に感謝すると共に、新たな態勢での大いなる活躍を期待しながら新旧役員が固い握手を交わしました。



▲ 講演中の中谷元長官

総会に次いで、講演会が実施され、我々の同窓生であります前防衛庁長官の中谷元衆議院議員の「21世紀の国家防衛」と題した力強い講話を聴講しました。

長官としての勤務を通しての迫力溢れる講話に現職会員のみならず、退職会員も改めて國の安全保障の重要性を再確認させられました。

懇親会においては、江戸会長の挨拶の後、新退職会員を代表して一（はじめ）氏（陸14期）の乾杯で開宴となりました。宴が一段落すると、北陸支部代表の久保氏（陸7期）、関西支部代表の中氏（空7期）がスピーチされ、隣接の支部が同じ目的に向かって力強く活動されておられる様が確認されました。続いて現職会員（陸）代表の第10師団副師団長瓦谷育夫陸将補（陸15期）、現職（空）代表の飛行開発実験団司令林富士夫空将補（空16期）が、それぞれの部隊活動の現況について、報告をされ、退職会員にとっては、任務等が大きく変化しつつある新たな自衛隊の活動に大変興味深いものがありました。更に、来賓として参列して頂いた防大父兄会愛知代表の都築氏と愛知偕行会会长の石原氏の挨拶を頂きました。

再び祝宴に戻り、久しく会っていない仲間と酒を酌み交わし、歓談の一時を楽しみました。

続いて、新しく着任した森新会長から、「防大は、我々の精神的基盤であり、また誇りでもあります。現役諸官の活躍はもとよりOB諸氏も同じ気持ちを忘れず一体となって頑張りたい。活動に当たっては、小原台クラブ・偕行会等志を同じくする方々との協調を図りつつ実施していきたい。」との会長就任の所信表明があり、森会長を中心にみんなで同窓会を盛り上げていこうと決意を新たにしたところです。



▲ 第4回総会懇親会風景

最後の締めは、みんな肩を組み大きな輪になって、学生歌・逍遙歌の大合唱。そして、最年少の坂本会員（陸47期）、柳詰会員（空47期）の音頭で、元気よく万歳三唱で締めくくりました。

○ 中部小原台クラブ総会

第20回総会が2月1日、名古屋クラウンホテルで、講師として防大28期のグッドウイル・グループ（株）会長折口雅博氏をお招きして開催されました。起業からの波瀾万丈の企業活動・組織運営等について興味深い講話を聞くことができました。我々の同窓生として、政界で大活躍中の24期「中谷前長官」に続いて、財界のホープの活躍の様子を本人から直接聞くことができ、会員一同大いに意気が上がったようでした。

○ 防大生の部隊実習の激励

平成16年7月、防大2年航空要員30名が小牧基地に実習に来たので、小牧支部が歓迎会を開催し、小牧支部の現職同窓生32名と東海支部の退職会員を代表して森会長、佐藤事務局次長（空12期）の2名が歓迎会に参加し激励しました。

○ ゴルフ部会・囲碁部会の活動

昨年発足した同好会は本年度は活発に活動を行い、会員の親睦に貢献しました。ゴルフ部会の会長は、浅井忠夫氏（陸1期）、世話人は水谷登氏（陸13期）で、融和団結・健康の維持増進を主眼に東海三県のいろんな場所で大会を催しました。（支部単独で3回、愛知偕行会と共に2回の実施でした。）

今後、北陸支部、関西支部と合同で大会が開催される日を夢見ております。

囲碁部会は、山上登氏（陸10期）を世話人として、定期的に活動を実施しているところです。

○ 叙勲等

春と秋の叙勲で、会員の中から江戸前会長（陸1期）、常川会員（空1期）の受賞者があり支部としても喜びを分かち合ったところです。また、8月末に、愛知県扶桑町の町長選挙において、我らが江戸前会長が多くの方々の強力な支援を受けながら、立候補し、見事町長に当選



▲ 江戸前会長、扶桑町長に当選

を果たし、二重の喜びを噛みしめているところです。選挙に当たって、決起大会・出陣式には多数の同窓生が応援に駆けつけ同窓生の繋がりの強さを示し得たものと考えています。

○ 第5回総会

第5回総会は、平成15年12月5日に昨年と同じ場所で開催の予定です。講演会の講師として、新しく着任された第10師団長の広瀬清一陸将を予定しており、海外での勤務経験・最近の自衛隊の活動状況等を交えた話が伺えるものと楽しみにしているところです。

○ 今後の部隊活動への対応

東海支部の地域には、空きの小牧基地があり、イラク復興支援活動の根拠地が存在し、国際貢献を実施する自衛隊の部隊活動を間近にして、会員一同大変大きな関心を持っているところですが、近々、海上自衛隊の部隊が派遣される機会があるものと予想をしながら、同窓会支部として、協力すべき事項について前向きに対応していくべきではないかと考えているところです。

関西地域支部（呼称・関西防大同窓会）

会長 中一皓（7期空）

今年は関西地域支部が発足して、5年の節目の年になる。当支部発足の経緯、昨年度上半期までの活動状況は、昨年の「支部だより」に記載したので、今回はその後の一年間の活動内容と今後の活動方針を紹介する。

昨年11月の総会には、昨今マスメディアで大活躍の防大9期空で現拓殖大学教授の森本敏氏を講師に迎えて「国際情勢と日本」と題して講演をいただいた。激動する国際情勢において、森本教授が一年前に講演された内容にほとんど狂いがないことに驚いている。その折の講演内容の骨子は、末尾に記したホームページに記載している。是非、一度ご覧いただきたい。

「参禅と京料理を楽しむ会」は1期陸の中田氏と同窓の誼で東福寺福島管長の特別のご配慮により紅葉が最高の季節を選んで毎年開催している。この行事には遠く北海道や関東から参加の常連もあるほどで、いつも定員超過の人気行事である。

史蹟探訪は従来、年1回、春に行なっている行事であるが、新春から始まったNHK大河ドラマ「新撰組」を楽しく見るための予備知識を兼ねて昨秋・今春の2回に渡って幕末「新撰組の足跡」を実施した。お陰でテレビ登場の人物や事件現場の相関関係等がよく判り、毎日曜の夜八時が待ち遠しい次第である。

「講演会」は、中国防衛駐在官として3年間勤務、現第37普通科連隊長山下純夫氏にお願いした。氏は駐在官勤務の傍ら堪能な中国語を駆使して中国各地を視察された経験から、軍事のみならず政治・経済・教育等に言及する内容で50名を超える聴衆を魅了した。

「カッター倶楽部」は、昨年の好成績に勢いを得て春先から練習に励んだが、残念ながら昨年ほどの成果は得られず、来期に期待を繋いだ。



「ゴルフ大会」は、春・秋の年2回が定着して参加者も20名を越す盛況となっている。

「テニス大会」は、日頃テニスに親しんでいる会員を中心には夫婦同伴の1泊2日で行い、早朝ハイキングや水泳・ジャグジーもあり、テニスをしない人も和気藹々の楽しい時を過ごした。

10月4日、第2回幹事を開催、会長はじめ各期幹事18名が参集し、今年度下半期の行事予定と次年度以降の活動方針を検討した。従来の各種行事を踏襲しながら、次年度から新たに文化部同好会発足の提案があり、次年度第1回幹事会（2月予定）までに意見集約することとなった。

次に、イラク派遣部隊がいよいよ地元から派遣される日が近づいてきた。先発隊が年明け早々に、本隊派遣は5月の予定と聞いている。最初に旭川部隊が派遣の折、有志会員から支援の申し出があり、幹事会で検討した結果、それぞれの地域に同窓会組織があり、いずれ地元部隊が派遣される時に支援を申し出る事に決定した経緯がある。現役同窓生のみならず、派遣部隊すべての隊員に物心両面で支援できる内容で実施したいと考えている。

行事内容は、下記ホームページに一年間保存で更新している。ご覧ください。

『関西防大同窓会ホームページアドレス』

<http://www.Kcat.zaq.ne.jp/kazu-n/>

九州防大同窓会の活動概要

会長 山口 賢介

九州防大同窓会は、例年と同様年間7回（約2ヶ月に1回）の本部事務局会同（内1回は各県支部長会議、1回は各期代表者会議）を実施しています。また、毎年2月に九州防大同窓会総会を行う他、ゴルフ大会・夏季定期訓練中の防大生の激励・陸・海・空自衛隊記念行事への参加、及び各県支部毎に、各県防大同窓会総会等の活動を実施しています。また、今年度変わった事項として、福岡FM放送「活躍する自衛隊」のコメンテーターとして福岡地区の事務局のメンバーを中心に出演し、第4師団司令部・西空司令部の協力を得て、自衛隊の活動についてPRしました。

福岡FM放送「活躍する自衛隊」のコメンテーターとして出演

平成16年7月4日から8月8日までの6週にわたり、福岡FM放送で日曜毎に2時間半の生放送番組で、「活躍する自衛隊」が放送されました。

九州防大同窓会では、福岡の有志による参加ということで前会長の中野氏をリーダーとして、同窓会事務局のメンバーを中心に12名がコメンテーターとして参加し、自衛隊の活躍状況を、体験を交え説明しました。

2時間半の各テーマは次のとおりです。

- 1 自衛隊の活動について（任務・訓練）
- 2 災害派遣と自衛隊（雲仙普賢岳・風倒木）
- 3 災害派遣・テロ対処（阪神淡路大震災・地下鉄サリン）
- 4 國際平和維持活動（派遣された主な活動）
- 5 個別の國際平和維持活動での活躍
- 6 国防と自衛隊（国防における自衛隊の課題

有事立法、國民保護法等の課題）

九州防大同窓会総会

九州防大同窓会は、平成16年2月28日、福岡市内のホテル・セントラーザにおいて10期生・30期生を担当幹事として「平成15年度防大防大同窓会総会・懇親会」を開催、1期の大先輩から防大卒業間もない48期の幹部候補生までの退職会員・現職会員の出席を得て、例年同様約200名が参加し、盛大な総会・懇親会となりました。

総会の後は、いつものように和やかな懇親会。締めくくりは、48期生の音頭で、学生時代を懐かしく思い出しながら、学生歌・逍遙歌を齊唱して散会しました。解散後、各期それぞれに、2次会へ流れました。

夏季定期訓練中の防大生を激励

夏季定期訓練のため、九州の陸・海・空自衛隊の駐屯地・基地（春日基地・都城駐屯地・鹿屋基地）を訪れていた防大生を、例年と同様に九州防大同窓会長山口氏をはじめ各県支部長及びOB代表等が訪問し激励した。

特に福岡の航空自衛隊春日基地では、副会長の市来氏

(2回)事務局長竹下氏・事業部長須賀崎氏が激励したが、学生との約40年の差に歴史を感じていた。

第5回九州防大同窓会ゴルフ大会

第5回州防大同窓会ゴルフ大会を今年の10月1日に恒例となりました小郡カントリークラブにおいて実施しました。今回は、現職会員にも案内を出し、航空自衛隊から4名の現職会員の参加がありました。(昨年度は、現職会員は不参加でその本音は、OBの高いレベルについていけない?からとの憶測もありましたが)、3期生から13期生までの61名の皆さんのが参加して、秋晴れの下、ダブルペリア方式により熱戦を繰り広げました。

今回は、企画担当者の予想に反し、現職航空チームの活躍が冴えて、賞品を独り占めされました。結果は次のとおりでした。

団体の部 優勝 現職航空チーム 準優勝11期 3位
10期となり、グロスの部でも現職航空チームが優勝しました。また、個人の部でも1位美馬(現職航空) 2位工藤(現職航空) 3位濱嶋(10期)の各氏、グロスでは、1位上杉(8期)でした。

連絡先 九州防大同窓会 事務局長 竹下 治雄

沖縄地域支部

沖縄地域支部では、那覇市内のメルパルク沖縄において毎年恒例となった平成16年2月8日(日)の沖縄寮歌・大学の歌祭にOB3名を含む15名の会員が参加しました。

参加会員は、やや窮屈ではありますが、思い思いに昔懐かしい制服に袖を通し、順番がまわってくるまでは、海軍兵学校及び陸軍士官学校の応援出演をするなど、各大学の寮歌に耳を傾けて出番を待ちました。

いざ、出番になると、前口上の後、逍遙歌を全員で声高らかに歌い上げ

(写真)、防衛大学校の名を高らしめました。



小原台クラブ

幹事長 中島 正雄(13空)

岩崎新会長の陣頭指揮の下、変化の第一歩を踏み出しました。

- 1月1日 会報第27号を発行。記事の種類を増やしつつ読みやすくを編集方針として作製。
- 1月23日(金)日本橋サリュコパンにおいて新年賀詞交換会を開催。
- 4月 4月21日(木)ニュー南総ゴルフ倶楽部(千葉県市原市)にて第1回小原台クラブオープンゴルフ大会を開催。会員及び同窓生OB総勢33名(1~33期)によるグロス個人戦で優勝は管博敏氏(13期、80ストローク)以下2位岡田美孝氏(13、84)3位岩崎俊雄氏(9、85)4位二宮修氏(13、85)5位大曾根章氏(14、85)
- 7月 7月3日(土)新橋第一ホテルアネックスにおいて定時総会、講演会、懇親会を開催。講演会は岡本智博氏(11期元空将)による「激変する現代戦の実態」この内容については12月発行予定の会報28号に掲載。
- 12月 会報第28号発行。

上記以外に定期的に「小原台クラブ勉強会」を実施。20~40期の若手を中心に部外の一般参加者も多数得て2、3ヶ月ごとに開催。

概要は以下の通りです。

	内 容	メイン講師
第1回	2月13日 最近のSECURITY関連の事件や話題	萩原栄幸氏
第2回	4月21日 最近の金融事情	伊藤一泰氏
第3回	6月4日 サイバー犯罪の現状と課題	舟橋 信氏
第4回	9月29日 指揮官の行動学	仲摩徹弥氏
第5回	10月29日 秋の夜空と宇宙のロマン	井上 充氏

*平成17年の予定

- 1月21日(金)18:00~ 新年賀詞交換会 日本橋サリュコパン
- 4月20日(木) 第2回小原台クラブオープンゴルフ大会
ニュー南総ゴルフ倶楽部
参加者募集中(会員及び同窓生)
問い合わせ
snb02971@nifty.com(担当小木曾)
- 7月8日(金)18:00~ 定時総会、講演会、懇親会
新橋 第一ホテルアネックス
- 12月 会報29号発行

「小原台クラブ勉強会」問い合わせ先

yamamotokst@yahoo.co.jp(担当 山本)

顕彰碑献花式

例年同窓会主催により行われていた顕彰碑献花式は、本年度より開校祭の記念事業の一環として学校主催で開催されることになり、11月13日(土)13:30~14:00秋晴れの穏やかな天候の下、学生の手により奇麗に清掃された顕彰碑の前で、多くの関係者が参加して殉職された同窓生89柱に対する慰靈の式典が厳粛な中に整齊と実施された。

式には、渡邊同窓会会长を始め1期生から52期生までの各期の代表者55名が参加するとともに、学生隊・大隊学生長等の学生代表等多数の同窓生が参加した。本式典には、防大儀仗隊とプラスバンド部が参加したのに加えて、開校祭で訪れた多くの一般来校者が慰靈祭の会場に

詰め掛けて、例年ない盛大な慰靈の行事となった。

式は、参加者全員による黙祷、防大儀仗隊による儀仗、本年度飛行訓練中殉職された第43期生高瀬1等陸尉の芳名録奉納が行われた後、執行者の西原学校長の慰靈の辞に続き渡邊会長が同窓生を代表して慰靈の辞を述べ、その後参加者全員による献花が実施された。

本式典に参加した同窓生達は、高瀬1等陸尉を始め89柱の御靈のご冥福を祈念するとともに、志半ばにして職に殉ぜられた同窓生の遺志を受け継ぎ、我が国の平和と独立を守り國の安全を保つことに邁進する事を誓いあった。

総務部 後藤 記



執行者 西原学校長の慰靈の辞



渡邊同窓会会长の慰靈の辞

タイ国留学生との歓迎夕食会

防大への留学生は現在では常時約30名が在校しており派遣国もタイ、韓国、シンガポール、マレーシア、モンゴル、ルーマニアと多彩になっています。

同窓会では卒業後母国で活躍しているこれらの留学生を毎年開校際の時期に合わせ日本に招待しています。今回タイ国からパンナシリ ブアップン陸軍少佐(防大39期)、ジラワット トングルアン海軍少佐(防大40期)の2名が招待されました。ジラワット少佐は防大卒業後東京理科大学で工学博士号を取得し現在は軍の学校で理工学の教官として勤務しています。

11月15日夕刻、汐留カレッタ46階のスカイレストランで2人の留学生と同窓会渡邊会長、佐伯副会長、後藤、中治各事務局員にタイ国駐在武官 ソラニット ロジャナスワン陸軍大佐、パンナシリ少佐の同期の友人 益永1陸尉(現防大小隊指導官)を交えて夕食会が実施されました。

夕食会ではタイで勤務する防大卒業生の活躍状況などの話題で大いに盛り上がっていました。タイでは毎年、夏冬の2回同窓会が実施されその都度約30名が集まるそうです。渡邊会長の来年は日本から押しかけてもいいかとの質問には是非お出で頂きたいと即答が返っていました。

また、日本の武器輸出3原則が緩和されたら、タイで日本の武器の部品等を製造して欲しいことや、さらに日本の技術を取り入れてタイから東南アジアに輸出できるようにしたいなどの率直な意見も飛び出していました。

ジラワット少佐は来日直前に初めての子供さんが生まれたばかりで病院で赤ん坊とつかのま対面をしての来日だったようです。そのジラワット少佐とソラニット駐在武官の夫人は



▲招待された留学生

いずれも日本人とのことで日本語が大変堪能でした。

二人に比べる日本語環境に恵まれない独身のパンナシリ少佐の日本語は今一歩のところがあり渡邊会長から「日本人の奥さんがいる分だけ頑張って勉強しろ」とハッパをかけられる一幕もありました。

最後に留学生がタイから持参してきた民族色豊かな沢山のお土産を一人ひとりに贈り和やかなうちに夕食会を終わりました。



▲プレゼントを喜ぶ会長・副会長

事務局 企画 中治 記

第8回期別対抗ゴルフ大会

ゴルフ

優勝 グロスの部 13期生
ネットの部 2期生

平成16年9月23日(金)第8回防大同窓会期別対抗ゴルフ大会が、千葉カントリークラブ川間コースで行われました。

優勝杯は、グロスの部を13期が、ネットの部を2期生が獲得しました。

各期10名の選手で争う同窓会期別対抗ゴルフ大会も今年で、第8回となりました。今年から14期生が新たに加わり、総勢140名の大規模な大会となりました。

この大会は、グロス、ネットとも、各期上位7名の合計スコアで順位を決定するもので、シニア等の区分、ハンディはありません。

開会式で、渡邊同窓会会长から「本日は、曇りだけど、暑くもなく、寒くもなく、絶好のゴルフ日和になりました。ゴルフをできることは、健康



▲グロス優勝 13期生チーム



▲開会式で挨拶する渡邊会長

のあかしであります。日頃の80%の実力を発揮するよう選手皆さん頑張って行きましょう」とのスピーチを受け、各選手は、元気いっぱいにスタートしていきました。

各選手は、各期生会の代表ということで、この大会のため、事前に本コースを、3~4回練習ラウンドした期生会もあったようですが、同窓会の大会ということで、各組とも和気藹々の雰囲気のラウンドでした。

試合終了後、クラブハウスで、ノンアルコールでの懇親会でしたが、自分のプレーの披露等を紹介し合い、盛り上りました。

表彰式は、渡邊会長からグロス優勝、ネット優勝チームに、優勝杯、賞品が授与されました。

グロス優勝チームのメンバーは、植木、樋口、関、後藤(英)岡田(美)、木下、菅、二宮、寺口、溝下(敬称略、順不同)の皆さんでした。

ネット優勝チームのメンバーは、村田、北村、庄、岡、吉崎、三石、大中、林(赳)、佐藤(進)、白鳥(敬称略、順不同)の皆さんでした。

グロス個人優勝は、二宮修(13期 空)で、スコアは76でした。

記事 青木(13期 陸)、土屋(14期 陸)

囲碁

6期生4年連続制覇

防衛大学校同窓会が主催する各期対抗の親睦・交流行事として第6回目の囲碁大会が9月4日(土)日本棋院会館において実施された。当日は、1期生から初参加の14期生までの選抜棋士111名が一堂に会し、素晴らしい熱戦が繰り広げられた。開始に先立ち、藤繩同窓会副会長の挨拶の後、高比競技委員長から競技実施上の処注意があり、9:30熱戦の火蓋が切られた。

競技は、各期対抗方式(個人戦集計方式)で実施され、あらかじめ決定していた対戦表に基づき、オール互先、先手6目半コミ出しとする4回戦で実施された。対戦結果を壇上に設置したチャートに掲示しつつ、昼食を挟み午前・午後各2回の対戦を行った。

対戦終了後表彰式に移り、優勝した6期生の代表に武田副会長から優勝カップ及び副賞が授与された。引き続き高比競技委員長の乾杯の音頭により懇親会に入り、激戦を振り返りつつ和やかな歓談のうちに本大会を終了した。

なお、準優勝7期生、第3位4期生、4戦全勝者16名でした。

また、9月18日(土)には、防大囲碁クラブの主催により、同窓生27名により本因坊戦(個人戦)が、日本棋院八重洲囲碁センターで行われ、16期の日暮さんが優勝し第3代本因坊に輝いた。なお、準優勝山口さん(36期)、第3位高比さん(1期)でした。



第6回防大同窓会囲碁大会成績表

期	1回戦		2回戦		3回戦		4回戦		合計		順位
	勝	負	勝	負	勝	負	勝	負	勝	負	
1	3	5	6	2	5	3	2	6	16	16	7
2	5	3	4	4	5	3	4	4	18	14	6
3	2	6	5	3	5	3	4	4	16	16	7
4	4	4	5	3	5	3	7	1	21	11	3
5	4	4	4	4	4	4	7	1	19	13	4
6	7	0	6	2	7	0	7	1	27	2	1
7	7	1	6	2	5	3	7	1	25	7	2
8	4	4	2	6	5	3	5	3	16	16	7
9	5	3	3	5	3	5	3	5	14	18	11
10	6	2	3	5	6	2	4	4	19	13	4
11	4	1	5	0	4	1	2	3	15	5	10
12	0	5	1	3	1	3	1	3	3	14	14
13	2	5	3	4	0	7	2	5	7	21	12
14	2	5	2	5	0	6	1	5	5	21	13

注:順位は、各期の上位7名の勝ち数による。従って、6期が8勝した場合は、7勝としている。

(14期 石井)

第7回防大同窓会期別対抗テニス大会

テニス

第7回防衛大学校同窓会テニス大会が5月23日(日)防衛大学校テニスコートで行われました。大会日程は、当初予定の5月16日(日)が当日早朝から強い雨に見舞われ、6時に急遽取り止め、予備日の23日に延期したものです。23日当日は北よりの風が吹く極めて肌寒い曇りベースの1日でありましたが、各期の選手は朝早くからコートに集まり、1期生から14期生までの卒業生117名、ご夫人16名の計133名の参加を得ました。現役学生硬式庭球部員の支援を受け、前日までの雨模様で痛んだコートを整備し、どうにか試合ができるようになりました。9:00開会式を行い渡邊会長のご挨拶の後、試合開始となりました。今回からは、1期生、2期生はグランドシニアとしてペアの個人戦とし、3期生～8期生をシニアリーグ、9期生～14期生をレギュラーリーグとし期別対抗団体戦としました。

各試合とも寒さを吹き飛ばすほどの熱戦がくりひろげられ、昼食時間をとらずに試合を続け、怪我もなく17:15終了しま



した。終了と同時に雨が降り出しました。17:30から防衛大学校本館地下食堂において表彰・懇親会を行い18:15解散しました。大会の運営、特に準備、撤収に当たっては防衛大学校硬式庭球部学生部員の多大な支援を頂きました。

成績は次のとおりです

	優勝	2位	3位	4位	5位	6位
グランドシニア	井川・船山組					
シニア	7期	5期	8期	4期	3期	3期
レギュラー	14期	10期	12期	13期	9期	11期

会費納入のお願い

防衛大学校同窓会事務局長 新井 宏

12年度から14年度にかけて会費納入率が低下し、同窓会資産の取崩しにより事業を実施する等、会運営の危機に瀕しました。しかし、この2年間は新会員のご理解と関係各位のご努力によりまして、高率の会費完納率をうることが出来ました。特に、48期生の陸上及び航空要員は幹候校修了者全員が完納していただきました(表参照)。衷心より御礼申し上げます。

なお、同窓会に対して同窓生が等しく応分の負担をすると言う原則からすれば、会費未納者の存在は、同窓会存立の精神的基盤の弱体化を招き、将来に問題を残すものと思っています。

現在、会費未納の方(事務局で掌握しておりますので下記連絡先にご確認下さい。)は、次により会費納入をお願い申し上げる次第です。

会費に関する規定は、「防衛大学校同窓会会費に関する細則」により次の通りです。

普通会費は、卒業時における3尉俸給月額(1号俸)の1/4(1000円未満切捨) 同第1条
会費の納入を遅延した場合 同第2条2項

普通会費額 - 既納入額 + 遅延金

$$\text{遅延金} = 1000\text{円} \times (\text{完納年度} - 3\text{尉任官年度又は研究科卒業年度})$$

事例: 44期生で過去分納がない場合

普通会費額 60000円、 完納年度 17年度、 3尉任官年度 12年度 (13.3)

$$17\text{年度納入額} = 60000\text{円} + 1000\text{円} \times (17 - 12) = 65000\text{円}$$

納入先 郵便局の場合：口座番号 00260-5-□□24826 (百万及び十万の桁は無記入)

加入者名 防衛大学校 同窓会

通信欄 期別、要員別及び部隊名 (例：#30-陸、練馬 1i-1Co)

振込経費 120円

銀行の場合：三井住友銀行 飯田橋支店 口座番号：1270680

防衛大学校同窓会 経理担当 新倉 修

なお、銀行振込した場合は、当方で納入者を確認するため振込者名、住所、
期別・陸海空別、振込期日をeメール、Fax、電話等で下記にご連絡下さい。

連絡先 同窓会本部事務所

〒160-0003 東京都新宿区本塙町21-3-2

Tel/Fax 03-3351-8910 (専用線 8-6-28895)

eメール ZAN24404@nifty.com

ここ2年間の会費納入率に甘んじることなく、防大在校生に対するPR等継続的に努力する所存です。

会費納入状況

16.12.2現在

期別	会員数	完者 納 数	完 率 納 %	未完納者数				期別	会員数	完者 納 数	完 率 納 %	未完納者数			
				陸	海	空	計					陸	海	空	計
1	339	321	94	11	6	2	19	26	505	466	92	26	7	6	39
2	359	347	97	8	2	2	12	27	388	377	97	8	1	2	11
3	484	452	93	17	12	3	32	28	451	420	93	17	8	6	31
4	464	435	94	20	7	1	28	29	391	357	91	17	7	10	34
5	529	482	91	26	11	9	46	30	410	343	84	48	13	6	67
6	477	431	90	38	7	3	48	31	431	408	95	15	6	1	22
7	503	460	91	29	7	8	44	32	404	354	88	31	13	6	50
8	465	418	90	35	8	5	48	33	447	376	84	45	19	8	72
9	498	447	90	35	6	10	51	34	426	372	87	40	9	6	55
10	498	451	91	28	9	10	47	35	496	477	96	11	5	3	19
11	495	448	91	28	8	11	47	36	354	344	97	6	2	2	10
12	466	408	88	30	16	12	58	37	384	347	90	16	7	14	37
13	468	400	86	44	11	12	67	38	337	267	78	61	10	4	75
14	491	456	93	20	2	13	35	39	356	333	92	8	11	9	28
15	463	446	97	9	3	3	15	40	388	333	85	34	21	5	60
16	428	404	94	9	4	11	24	41	405	373	90	24	15	3	42
17	497	452	91	20	11	14	45	42	407	375	90	20	12	10	42
18	423	395	94	9	7	11	27	43	433	391	89	23	16	8	47
19	446	412	92	14	18	2	34	44	381	194	51	136	46	5	187
20	383	352	92	17	3	11	31	45	351	129	37	155	21	46	222
21	489	468	96	12	3	6	21	46	360	211	59	77	8	64	149
22	474	410	87	31	9	23	63	47	389	338	87	32	11	8	51
23	408	392	95	8	8	6	22	48	* 383	337	87	0	46	0	46
24	446	413	93	8	18	7	33		411	337	82	15	50	9	74
25	422	395	94	12	4	8	24								

48期の欄 *印の項は、幹候校入校者に対する数値。海は教育期間1年故、12月の納入が見込める。

平成15年度防衛大学校同窓会決算報告

平成16年3月31日
〔単位：円〕

項目		予算	実績	備考
収入	会費（47期生等）	20,100,000	26,875,240	
	預貯金利息	1,184,000	1,376,398	
	同窓会名簿代	12,600,000	4,192,000	
	50周年記念事業委員会からの移管	—	159,666	
	50周年事業継続経費からの付替え	—	110,426	
	合計	33,884,000	32,713,730	
一般会計	事業計画の推進			
	(現職・OB会員交流)	300,000	50,110	
	(同窓会主催親睦交流会開催)	210,000	210,000	
	(ホームカミングデーの実施)	800,000	600,210	
	(会員の出版等支援)	50,000	0	
	(防大卒業留学生との連携)	200,000	0	
	(全国的な情報網の維持整備)	100,000	54,658	MCIを含む
	50周年事業（諸支援）	300,000	221,008	
	顕彰碑献花式費	500,000	236,461	
	総会/講演会費	1,500,000	1,130,282	
	代議員会運営費	700,000	822,040	
	機関誌発行費	3,300,000	4,062,772	
	同窓会名簿作成	11,755,000	7,417,020	
	慶弔費（供花、弔電）	350,000	373,423	
	期生会支援費（48期生、51期生）	200,000	200,000	
	校友会对外活動支援費	1,000,000	1,000,420	
	安全保障講座助成金	100,000	100,105	
	開校記念祭等支援費	2,000,000	2,001,470	
	職員定年退職記念品費	100,000	111,940	
	小計	23,465,000	18,591,919	
維持管理経費	小原台事務局運営費	100,000	37,478	
	事務員雇用費	2,000,000	2,000,000	
	本部事務局室賃貸料	2,900,000	2,816,360	
	事務費	700,000	904,486	MCIを含む
	通信費	550,000	600,308	MCIを含む
	交通費	400,000	645,040	MCIを含む
	会議費	600,000	405,392	
	記念品作成	500,000	367,920	
	小計	7,750,000	7,776,984	
	予備費	1,500,000	—	
	支出計	32,715,000	26,368,903	
	積立金に繰り入れ	1,169,000	6,344,827	
	合計	33,884,000	32,713,730	
特別会計 50周年事業継続(MCIを含む)	収入	50周年記念事業委員会からの移管	—	41,741,331
	預貯金利息	—	12,982	
	合計	—	41,754,313	
	支出	同窓会システムの維持経費（構築及び運用）	113,200	—
		謝金等	1,400,000	120,000
		通信費及び事務費	75,000	19,845
		一般会計へ付け替え	—	110,426
		予備費	111,800	0
		支出計	1,700,000	250,271
		次年度への繰越	—	41,504,042
		合計	—	41,754,313



平成17年度防衛大学校同窓会予算

平成16年12月17日
〔単位：円〕

項目		16年度予算	17年度予算案	備考
収入	会費（49期生等）	22,130,000	18,740,000	
	預貯金利息	1,380,000	1,380,000	
	50周年記念事業等からの移管		700,000	
	雑収入		20,000	
	収入計	23,510,000	20,840,000	
	事業計画の推進			
	(現職・OB会員交流)	300,000	300,000	
	(同窓会主催親睦交流会開催)	210,000	150,000	
	(ホームカミングデーの実施 7期生等)	300,000	400,000	#7分、30万円
	(防大卒業留学生との連携)	200,000	200,000	
事業経費	(全国的な情報網の維持整備)	30,000	250,000	(MCIを含む)
	(期生会連絡強化支援)		150,000	新規
	顕彰碑献花式費	300,000	100,000	
	総会/講演会費	1,100,000	700,000	
	代議員会運営費	600,000	500,000	
	機関誌発行費	3,400,000	3,700,000	
	同窓会名簿管理（作成）	350,000	350,000	
	慶弔費（供花、弔電）	350,000	400,000	
	同窓会のあり方検討	200,000	0	
	中期事業の検討		200,000	新規
会計	期生会支援費（50、53期生）	200,000	200,000	
	校友会対外活動支援費	1,000,000	1,000,000	
	開校記念祭支援費	2,000,000	2,000,000	
	防大競技会記念品支援費		530,000	新規
	安全保障講座助成金	100,000	100,000	
	小計	10,640,000	11,230,000	
	同窓会本部の整備	680,000	0	
	小原台支部事務所の整備	100,000	100,000	事業の継続
	小原台事務局運営費	200,000	100,000	
	事務員雇用費	2,000,000	2,000,000	
維持管理経費	本部事務局室賃貸料	2,900,000	2,900,000	
	事務費	850,000	900,000	(MCIを含む)
	通信費	450,000	600,000	(MCIを含む)
	交通費	400,000	650,000	(MCIを含む)
	会議費	600,000	600,000	
	小計	8,180,000	7,850,000	
	予備費	1,500,000	1,500,000	
	支出計	20,320,000	20,580,000	
	積立金に繰り入れ	3,190,000	260,000	
	合計	23,510,000	20,840,000	
50周年（MCIを含む）事業継続経費	収入	前年度からの継越	41,504,042	26,014,042
		預貯金利息	10,000	7,000
		合計	41,514,042	26,021,042
	支出	防大顕彰室備品等費	9,500,000	0
		MCI準備室の整備	1,000,000	0
		MCI事業及びHPの管理運用態勢整備		1,000,000 新規
		謝金等	1,800,000	1,800,000
		同窓会システムの維持経費	140,000	200,000 一般会計付替
		通信費及び事務費	150,000	200,000 一般会計付替
		交通費		300,000 一般会計付替
		同窓会一般会計への付替え		(700,000)
		予備費	2,910,000	1,000,000
		支出計	15,500,000	4,500,000
		次年度への継越	26,014,042	21,521,042
		合計	41,514,042	26,021,042

期生会会長・代議員名簿

16年12月1日現在

期別	会長	代議員		
		陸	海	空
1	吉川圭祐(海)	荒武良弘	岡田毅	青柳隆郎
2	野本恒雄(空)	中山隆志	井川宏	野本恒雄
3	永島脩一郎(空)	亀井浩太郎	松本昭一	山下民夫
4	椎崎博理(海)	大久保浩	向井朗	上川高昌
5	福地建夫(海)	三浦天士	小田優秀	宮竹恵哉
6	高橋伸治(空)	大窪哲哉	杉本光	星野元宏
7	落合畯(海)	大塚忠宏	落合畯	北原彰
8	北川文夫(空)	中條豁	本間宏	白川新
9	鈴木一嘉(空)	土井義尚	藤田幸生	鈴木一嘉
10	長谷川語(海)	嶋野隆夫	小田倉光伸	兒玉秀正
11	竹村訓(海)	内村彰和	吉原征義	赤羽益三
12	先崎一(陸)	山本公志	上村堯彦	寺田治夫
13	山下輝男(陸)	関芳雄	平井良彦	花岡芳孝
14	吉田正(空)	石井利博	斎藤隆	稻葉憲一
15	今村功(陸)	林直人	小林幹夫	江口啓三
16	江藤文夫(陸)	石川由喜夫	小豆野実	肥後賢治
17	河野美登(海)	山口淨秀	河野美登	永田久雄
18	持永昇三(海)	木下典夫	岩崎繁美	笠原久
19	酒井健(陸)	酒井健	竹口健二	上田完二
20	佐藤貞夫(陸)	西村智聰	加藤耕司	土橋一大
21	彌田清(空)	竹田重樹	田尾輝雄	奥村芳樹
22	宮下寿広(陸)	盛一丈嗣	山口透	福井正明
23	岩本豊一(陸)	堀口英利	高橋忠義	尾形誠
24	高橋均(海)	櫻木正明	三木伸介	岩成真一
25	高鹿治雄(海)	田中良夫	徳丸伸一	吉田浩介
26	屋代律夫(陸)	増田潤一	大保信一郎	佐々木金也
27	小林茂(陸)	小林茂	副島尚志	安川隆廣
28	田浦正人(陸)	田浦正人	畠野俊一	遠目塚進
29	馬場邦夫(陸)	中村浩之	中尾剛久	村上和彦
30	堀切光彦(陸)	山崎繁	森田義和	小田紀彦
31	高山博光(陸)	山根直樹	今村靖弘	常井隆志
32	榎原吉典(空)	池田和典	平井良和	榎原吉典
33	中塙千陽(空)	山根寿一	真殿和彦	沖野正敏
34	佐藤信知(空)	大谷勝司	福田達也	小笠原卓人
35	植森治(空)	中迫博文	保科俊明	右田竜治
36	足達好正(陸)	足達好正	塙崎浩之	寺崎隆行
37	宇佐美和好(空)	小川隆宥	浦口薰	宇佐美和好
38	有馬元(空)	森本康介	濱崎真吾	霜田豊英
39	湯下兼太郎(陸)	湯下兼太郎	平田利幸	竹岡功二
40	清水徹(海)	小澤学	川野邦彦	大石和浩
41	堤田和幸(海)	村上淳	小河邦生	中谷大輔
42	武田和克(陸)	武田和克	中尾喜洋	山口嘉大
43	鎌田淳(空)	澤繁美	戸永竜太	岩切主税
44	高橋秀典(海)	鈴木攻祐	阿部直樹	原田理
45	庄司秀明(陸)	青山佳史	岡澤智和	坂田靖弘
46	原田岳(陸)	石岡直樹	石川俊紀	寺林洋平
47	吉水憲太郎(陸)	清田裕幸	笠原健治	那須悠花
48	和田嵩一(海)	桐谷高弘	青山太輔	齋藤真吾

お知らせ

名簿更新に関する防大同窓会事務局からのお願い

皆様ご存知のことと思いますが、昨今、個人情報の保護が強く求められる社会情勢になり、防大同窓会の名簿の更新に関する各幕のご協力が全く得られなくなりました。

つきましては、各期生会のご協力を仰ぎ、名簿を更新していく必要が生じました。名簿の更新は、年1回、8月1日を基準として実施しております。よろしくご協力をお願い致します。

また、各期生会の会長、代議員の交代がありましたら、

事務局総務部人事担当までご連絡下さい。また、各期生会に名簿係の方がおられれば、その方と連絡させていただきますので、名簿係の期別、陸空海別、氏名、連絡先等をご連絡下さい。宜しくお願ひ致します。

事務局総務部人事担当 石井 健治（総括 空担当）
寄田 修（陸担当）
飯田 俊明（海担当）

防大同窓会本部会議室の積極的な使用について

防大同窓会本部は、市谷の防衛庁正門の斜め向い前にあります防衛庁共済組合が所有するビル（共済1号館）の3階の一部を間借りし、業務を実施しています。

防大同窓会本部は、同窓会員との連絡の中核、本部役員等の定例的会議、各種事務作業及び同窓会関連の資料保管等に使用してきました。しかしながら、全般に使いづらいため平成16年度の事業として会議・事務処理・保管の各機能の改善を図り年度当初に整備を完了しました。特に会議室は、狭くて使いづらいこともあり、本部の役員及び事務局を除きますと一部の期生会等が使用してきたのに止まっておりました。この度の整備で会議室用の部屋も相対的に広くなり、またパソコン・モバイルプロジェクター等によりペーパーレスで会議等が実施出来るようになりました。

つきましては、防大同窓会本部会議室をこれまで殆んど使用実績のない各期生会や校友会等にも会議等で使って頂き、同窓会本部会議室を有効活用しようと考えております。



使用に当りましては、会議等の重複を避ける為、予約して下さい。

尚、申し込み、使用要領等は下記のとおりです。

記

- 1 申し込み：3ヶ月前から、メールかFAX
- 2 使用時間：10:00～17:00
- 3 使用料：1000円／1回
(会議室の維持整備費として)

同窓会本部会議室が整備されましたを機に、同窓生の皆さんに是非積極的に使用して頂き、各期生会や校友会ひいては同窓会活動が一層活性化されること期待しています。

【参考】

防衛大学校同窓会

〒160-0003 東京都新宿区本塙町21-3-2
TEL (FAX) : 03-3351-8910
専用線 : 8-6-28895

事務局 e-mail : bodaik@nifty.com

同窓会のホームページアドレス :

<http://www.bodaidsk.com>

防大同窓会総会のご案内

平成16年度同窓会総会を下記のとおり開催致します。ご出席を賜りたくご案内申し上げます。

記

1 日 時 平成17年3月22日(火) 16:00~20:30

- (1) 総会 16:00~17:20
- (2) 講演会 17:20~18:20
- (3) 懇親会 18:30~20:30

2 場 所 グランドビル市ヶ谷

新宿区市谷本村町4-1
(TEL. 03-3268-0111)

3 懇親会費 4,000円

参加される方は、同封の返信用はがきにて平成16年2月21日(月)までにお申し込み下さい。
(いずれにも参加されない方の返信は不要です。)

同窓会本部・支部等の役員紹介

[平成16年度同窓会本部役員]

会長	渡邊 信利	6(陸)	総務担当	小津 光由	14(陸)	事務局長付	藤本 四郎	12(陸)
副会長兼理事長	佐伯 聖二	7(海)	広報担当	青木 吉則	13(陸)	同窓会ホームページ担当	荒木 紀夫	8(空)
副会長	藤繩 祐爾	8(陸)	同	西 昇	14(海)	常駐事務局員	塙川 太恵	
同	武田 清	8(空)	人事担当	石井 健治	13(空)			
理事	戸田 耕司	8(陸)	同	寄田 修	14(陸)	小原台事務局		
理事兼事務局長	新井 宏	9(陸)	同	飯田 俊明	14(海)	事務局長	川上 潔	17(空)
理事	長谷川 語	10(海)	経理部長	新倉 修	12(陸)	事務局長補佐	三竿 明	17(陸)
同	原 充男	10(空)	経理担当	小宮 哲夫	13(海)	総務部長	新開 仁司	22(海)
同	藤野 毅	18(陸)	同	城 憲夫	13(空)	総務係長	永田 志仁	35(陸)
同	杉本 正彦	18(海)	同	行徳 浩志	14(陸)	総務係長	斎澤章太郎	44(陸)
同	橋本 誠一	18(空)	事業部長	佐古 寿聰	12(陸)	広報係長	廣谷 雅臣	35(陸)
会計幹事	出水 克明	7(海)	事業担当	大西 則雄	13(陸)	広報係長	川口 茂	44(陸)
同	尾頭 誠	8(空)	同	湯川 正修	13(陸)	事業部長	田原 俊幸	21(空)
同	中埜 和男	18(陸)	同	井出 順	13(海)	企画係長	片山 智浩	36(空)
			同	新治 毅	13(空)	企画係長	櫻井 徹	44(陸)
本部事務局員			同	石井 利博	14(陸)	事業係長	安井 崇	37(陸)
事務局長	新井 宏	9(陸)	同	土屋 勝政	14(陸)	事業係長	森安 竜	41(海)
総務部長	後藤 健次	11(陸)	同	小島 健二	14(空)			
総務担当	後藤 英二	13(陸)	同	中治 一秀	14(空)			

[地域支部等役員(平成16年末現在)]

北部地域支部	支部長	工藤 義	(12・陸)	札幌市	広島地区支部	同	松村 清人	(6・海)	広島市
東北地域支部	同	小関 隆久	(6・陸)	仙台市	福岡地区支部	同	大坪 成二	(4・陸)	福岡市
関西地域支部	同	中 一皓	(7・空)	枚方市	長崎地区支部	同	国分 八郎	(2・海)	大村市
西部地域支部	同	山口 賢介	(7・陸)	大野城市	佐賀地区支部	同	澤田 猛	(3・陸)	基山町
沖縄地域支部	同	藤井 建吉	(7・陸)	那覇市	熊本地区支部	同	小島 元光	(5・陸)	熊本市
栃木地区支部	同	鯉沼 義則	(1・陸)	壬生町	大分地区支部	副支部長	小俣 健二	(7・陸)	別府市
東海地区支部	同	森 敏	(5・空)	名古屋市	宮崎地区支部	同	樋田 隆	(1・陸)	宮崎市
北陸地区支部	同	久保 正佳	(3・陸)	金沢市	鹿児島地区支部	同	麓川 昭憲	(9・陸)	鹿児島市
岡山地区支部	同	田中 康之	(1・陸)	岡山市	小原台クラブ	会長	岩崎 俊雄	(9・陸)	市ヶ谷



(16年度開校祭棒倒し)



(優勝の歓喜 4大隊)

編集 青木吉則・西 昇
印刷 (株)エイコープリント

防衛大学校同窓会本部連絡先

〒160-0003 東京都新宿区本塙町21-3-2

●局 線 TEL・FAX 03-3351-8910 ●専用線 TEL・FAX 8-6-28895
E/M: ZAN24404@nifty.com又はbodaij@nifty.com